

V. 日本古代・中世疾病 疾病観論文目録

小山, 聡子

藤本, 誠

細井, 浩志

<https://doi.org/10.15017/7172688>

出版情報 : 障害史研究. 6, pp.167-189, 2024-03-28. Society for Disability History Studies
(Shōgaishi Kenkyūkai)

バージョン :

権利関係 :



V. 日本古代・中世疾病 疾病観論文目録

(小山 聡子・藤本 誠・細井 浩志 編)

〔凡例〕

- 1、本目録は、日本において1945年～2021年の間に刊行された論文（書籍含む）を採録した。
- 2、著者（编者）、論文名、所収書籍・雑誌、出版社、刊行年およびキーワードの項目で構成した。
- 3、前近代では、近現代のような障害概念は未確立といえる。このため疾病という事象に着目して、やや広く採録した。
- 4、キーワードを便宜的に5種付した。名称と主たる内容は次の通りである。
 - ・治病者（医師・呪禁師・陰陽師・護持僧・祈祷僧・看病禪師・忍性・巫女）
 - ・障害者（盲僧・琵琶法師・癩者・賤民）
 - ・医書・医学（治療方法）
 - ・治病祭祀（御霊会・鬼気祭・祇園祭・祓・禊・加持・修法・祈祷など）
 - ・疾病観（病草紙・九相詩・鬼神・物狂他）
- 5、復刻版については、掲載していない。
- 6、この目録は、調査方法の都合上、全ての関連論文を網羅したものではなく、また事情により外したものもある。

No.	著者：著書・論文 (雑誌・出版社、刊行年)	キーワード
1	服部敏良『奈良時代医学の研究』(東京堂、1945年)	医書・医学
2	田辺尚雄『日本の音楽』(中文館書店、1947年)	障害者
3	斎藤励『王朝時代の陰陽道』(創元社、1947年)	治病祭祀
4	長崎次郎「徒然草の「癩」」(『国文学解釈と鑑賞』13-11、1948年)	疾病観
5	小島憲之「憶良の述作一沈痾自哀文を中心として」(『国語と国文学』25-9、1948年)	疾病観
6	家永三郎「地獄変と六道絵」(『美術研究』15-5、1948年)	疾病観
7	大鳥蘭三郎『日本医学史選要』(学術書院、1948年)	医書・医学
8	富士川游『日本医学史』(眞理社、1948年)	医書・医学
9	中村元「悩める人々への奉仕一上 忍性の社会活動」(『日本歴史』20、1949年)	障害者
10	中村元「悩める人々への奉仕一下 忍性の社会活動・その思想的立場と歴史的意義」(『日本歴史』21、1949年)	障害者
11	三井高孟「馬医絵巻に関する二三の考察」(『国華』687、1949年)	治病祭祀
12	魔山人「黄素妙論と医心方」(『書物展望』16-3、1949年)	医書・医学
13	斎藤助次郎「黄素妙論の医心方に就て」(『書物展望』16-4、1949年)	医書・医学
14	清水藤太郎『日本薬学史』(南山堂、1949年)	医書・医学
15	石田瑞磨「平安中期における在家信者の授戒精神の展開」(『仏教史学』4、1950年)	治病祭祀
16	岩橋小弥太「盲僧考」(『日本芸能史一 中世歌舞の研究』芸苑社、1951年)	障害者
17	大鳥蘭三郎「医療《日本人はどんな暮しをして来たか》」(『国文学解釈と鑑賞』16-8、1951年)	疾病観
18	田中一松「傳病草紙残欠について」(『大和文華』4、1951年)	疾病観
19	郡司正勝「河原者と芸能」(『総合世界文芸』4、1952年)	障害者
20	杉森美代子「女物狂考」(『東京学芸大学研究報告：国語国文学・漢文学』3、1952年)	疾病観
21	西野浩「占いと迷信の歴史一陰陽師より高島易断まで」(『改造』33-10、1952年)	治病祭祀
22	奥平英雄「病草紙一新国宝より」(『東京国立博物館研究誌』15、1952年)	疾病観
23	奥平英雄「病草紙解説」(『博物館ニュース』60、1952年)	疾病観
24	高橋真太郎「万安方と頓医抄の薬方」(『日本東洋医学会誌』4-3、1953年)	医書・医学
25	和島芳男「忍性菩薩伝」(『神戸女学院大学論集』1-1、1953年)	治病者
26	久松潜一「万葉集抄(二十七)一老身重病経年辛苦及思児等歌」(『国文学解釈と鑑賞』18-8、1953年)	疾病観
27	久松潜一「万葉集抄(二十八)一老身重病経年辛苦及思児等歌(二)」(『国文学解釈と鑑賞』18-10、1953年)	疾病観
28	堀一郎『我が国民間信仰史の研究』1(創元社、1953年)	疾病観
29	原田伴彦「中世賤民の一考察一特に河原者と商工業の關係を中心として」(『経済学雑誌』31-3・4、1954年)	障害者
30	林屋辰三郎「散所 その発生と展開一古代末期の基本的課題」(『史林』37-6、1954年)	障害者
31	石原明「丹波康頼の遺墨」(『日本医学史雑誌』5-2、1954年)	医書・医学
32	服部敏良『平安時代医学の研究』(桑名文星堂、1955年)	医書・医学
33	朝比奈彦彦『正倉院薬物』(植物文献刊行会、1955年)	医書・医学
34	大矢全節「薬の歴史一古代篇」(『日本医事新報』1609、1955年)	医書・医学
35	山賀勇「日本古代眼科略史」(『臨床眼科』9-4、1955年)	医書・医学
36	長井真琴「鎌倉極楽寺の忍性菩薩の救癩事蹟に就いて」(『大世界』10-7、1955年)	治病者
37	堀内秀晃「思想的背景としての陰陽道」(『国文学解釈と鑑賞』20-7、1955年)	治病祭祀
38	石原明「日本中世古版医書年表(1)」(『日本医学史雑誌』5-3、1955年)	医書・医学
39	石原明「日本中世古版医書年表(2)」(『日本医学史雑誌』6-1、1955年)	医書・医学

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	キーワード
40	京都国立博物館監修『医学に関する古美術聚英』（便利堂、1955年）	疾病観
41	利光三津夫「我が古代の救恤法—養老律令における身体障害者保護法—」（『政治公論』14、1955年）	障害者
42	日本学士院編『明治前日本医学史』全五巻（日本学術振興会、1955～1964年）	疾病観
43	表章「『天正狂言本』について」（『文学』24-7、岩波書店、1956年）	障害者
44	安藤常次郎「『弱法師』考」（『宝生』5-1、1956年）	障害者
45	金井清光「物狂能の分析」（『国語と国文学』33-9、1956年）	疾病観
46	金関丈夫「頓医抄と欧希範五臓図」（『医譚』復刊20、1956年）	医書・医学
47	石原明「梶原性全の生涯とその著書（1）」（『日本医史学雑誌』6-2、1956年）	医書・医学
48	石原明「梶原性全の生涯とその著書（2）」（『日本医史学雑誌』6-4、1956年）	医書・医学
49	むしゃこうじみのる『平家物語と琵琶法師』（淡路書房新社、1957年）	障害者
50	柴田実「盲人法師とその伝承—当道法師—宋根元記について」（『史窓』11、1957年）	障害者
51	前田淑「『日本振袖始』の一素材—蘇民将来説話をめぐって」（『香椎潟』3、1957年）	治病祭祀
52	牛田敏「『ものものけ』としての六条御息所—源氏物語構成上の意義」（『文芸研究』25、1957年）	疾病観
53	春田宣「落窪物語ノート—典薬の助について」（『文学・語学』6、1957年）	治病者
54	藤田経世・秋山光和『信貴山縁起絵巻』（東京大学出版会、1957年）	疾病観
55	三木栄「室町時代の堺の医事」（『和泉志』19、1957年）	医書・医学
56	安田竜夫「医心方をめぐる諸問題」（『日本医史学雑誌』7-4、1957年）	医書・医学
57	大久保強「源氏物語（夕顔の巻）における「物の怪」について」（『王朝文学』1、1958年）	疾病観
58	門前真一「夕顔の巻のものものけ追考—Xの設定」（『国語国文』27-10、1958年）	疾病観
59	永井義憲「土御門殿に於ける五壇法—紫式部日記に描かれたる仏教」（『平安文学研究』22、1958年）	治病祭祀
60	松本寧至「竹取物語管見—翁と不死薬」（『国文学』3-11、1958年）	医書・医学
61	石田明「奈良時代の名僧鑑真の伝えた医学について」（『日本医史学雑誌』9-1、1958年）	医書・医学
62	益富寿之助『正倉院薬物を中心とする古代石薬の研究』（日本礪物趣味の会、1958年）	医書・医学
63	利光三津夫「律令身体障害者保護法の実施—わが古代の救恤法（二）」（『東洋法学』2（1）、1958年）	障害者
64	和島芳男『叡尊・忍性』（吉川弘文館、1959年）	障害者
65	石原明『日本の医学』（至文堂、1959年）	医書・医学
66	梶原正昭「琵琶法師の生活（その1）」（『古典遺産』5、1959年）	障害者
67	吉田文夫「忍性の思想とその教学—上」（『日本仏教』4、1959年）	治病者
68	吉田文夫「忍性の思想とその教学—下」（『日本仏教』6、1959年）	治病者
69	千谷七郎「精神病理学から見た清少納言と紫式部」（『国文学解釈と鑑賞』24-10、1959年）	疾病観
70	野田只夫「中世賤民の社会経済的一考察—特に祇園社犬神人について」（『京都学芸大学学報』14、1959年）	障害者
71	奥平英雄『絵巻の世界』（創元社、1959年）	疾病観
72	富倉徳次郎「琵琶法師らの役割」（『国文学解釈と鑑賞』25-13、至文堂、1960年）	障害者
73	近藤かづ子「琵琶法師—その系譜と活動」（『史窓』17・18、1960年）	障害者
74	林屋辰三郎『中世芸能史の研究』（岩波書店、1960年）	障害者
75	鈴木敬三『初期絵巻物の風俗史的研究』（吉川弘文館、1960年）	疾病観
76	家永三郎「鈴木敬三著『初期絵巻物の風俗史的研究』」（『日本歴史』145、1960年）	疾病観
77	須田春子「道長の後宮独占と怨霊」（『青山学院大学一般教育部会論集』1、1960年）	疾病観
78	五来重「室町時代における高野聖の世俗的活動」（『大谷学報』39-4、1960年）	治療者
79	家永三郎編『日本絵巻物全集6 地獄草紙・餓鬼草紙・病草紙』（角川書店、1960年）	疾病観

No.	著者：著書・論文 (雑誌・出版社、刊行年)	キーワード
80	西郷信綱「源氏物語の「もののけ」について」(西尾実先生古希祝賀会編『中世文学の世界』岩波書店、1960年)	疾病観
81	鈴木成元「看病用心鈔について」(『日本歴史』139、1960年)	医書・医学
82	徳江元正「土車の周辺」(『國學院雑誌』62-10、1961年)	障害者
83	岡見正雄「瞽女覚書」(『女子大國文』20、1961年)	障害者
84	近藤喜博「平家琵琶以前—盲人史の一節」(『文学』29-10、1961年)	障害者
85	堀井度「疾病と治療の伝承」(『伝承』7、1961年)	疾病観
86	三谷栄一「古事記神話の構成と陰陽道—海神宮の神話をめぐって」(『日本文学論究』19、1961年)	治病祭祀
87	近藤——「蜻蛉日記上巻「兼家病む」の記事をめぐって—一つの解釈を中心に」(『国語国文学報』13、1961年)	疾病観
88	近藤喜博「剣の護法童子—民俗学的に見た日本文学と宗教・神道」(『国文学解釈と鑑賞』26-5、1961年)	疾病観
89	三井駿一「医心方小児変蒸法私校」(『日本東洋医学会誌』12-4、1961年)	医書・医学
90	次田真幸「水蛭子と葦船—海人族の伝承の一考察」(『国文』17、1962年)	障害者
91	林屋辰三郎「河原者の流れ」(『国文学解釈と鑑賞』27-11、1962年)	障害者
92	嶋谷円我「散所と浄土教—中世篇」(『仏教大学研究紀要』42・43、1962年)	障害者
93	麻原美子「平家物語と琵琶法師—平曲流布の実態面を中心として」(『国文目白』1、1962年)	障害者
94	西田長男「祇園牛頭天王縁起の諸本—上」(『神道史研究』10-6、1962年)	治病者
95	吉井良隆「牛頭天王・武塔神・素戔鳴尊」(『神道史研究』10-6、1962年)	治病祭祀
96	今井啓一「祇園社の鎮座以前について」(『神道史研究』10-6、1962年)	治病祭祀
97	久保田収「祇園社の創祀について」(『神道史研究』10-6、1962年)	治病祭祀
98	河野省三「民間祭祀としての祇園信仰」(『神道史研究』10-6、1962年)	治病祭祀
99	佐藤虎雄「金峰山における祇園信仰」(『神道史研究』10-6、1962年)	治病祭祀
100	鎌倉市教育委員会『極楽律寺展：忍性とその周辺』(鎌倉国宝館、1962年)	治病者
101	笠原一男『真宗における異端の系譜』(東京大学出版会、1962年)	治病祭祀
102	山上伊豆母「『ことのかたりごと』の系譜—琴と琵琶」(『文学』30-8、1962年)	障害者
103	石上堅「盲目文芸発想序説」(『日本文学論究』21、1962年)	障害者
104	石原明「『医家千字文註』が中世医学に占める地位について」(『日本医史学雑誌』9-3・4、1962年)	医書・医学
105	石原明「『葉経太素』と和気広世」(『日本医史学雑誌』9-3・4、1962年)	医書・医学
106	杉田暉道「記主禪師の看護観」(『日本医史学雑誌』9-3・4、1962年)	医書・医学
107	徳江元正「続・土車の周辺」(『日本文学論究』23、1963年)	障害者
108	荏寺枚平「弱法師の異本」(『宝生』12-3、1963年)	障害者
109	圭室諦成「治病宗教の系譜—中世後期を中心として」(『日本歴史』186、1963年)	治病祭祀
110	大村沙華「武士・僧侶・盲人・お店者・素一分・大一座」(『解釈と鑑賞』28-3、1963年)	障害者
111	和島芳男「叡尊没後の忍性について」(『金沢文庫研究』9-10・11、1963年)	治病者
112	西田長男「祇園牛頭天王縁起の諸本—中」(『神道史研究』11-2、1963年)	治病者
113	西田長男「祇園牛頭天王縁起の諸本—下」(『神道史研究』11-3、1963年)	治病者
114	土井浩子「お伽草子の異類物について」(『国文』19、1963年)	障害者
115	香西精「弱法師—作者と本説」(『観世』30-1、1963年)	疾病観
116	河原正彦「『吉備大臣入唐絵詞』の成立と陰陽道」(『文化史研究』15、1963年)	治病祭祀
117	近藤喜博『古代信仰研究』(角川書店、1963年)	疾病観
118	吉田光邦「日本における丹薬」(『科学史研究』65、1963年)	医書・医学
119	八幡栄太郎「琵琶語りの盛衰」私見(一)(『伝承文学研究』4、1963年)	障害者

V. 日本古代・中世疾病 疾病観論文目録

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	キーワード
120	岩崎武夫「小栗判官の世界」（『日本文学誌要』10、1964年）	障害者
121	山川振作「記紀「国生み」神話の考察一特に乞食の水蛭子・淡島について」（『比較文化研究』5、1964年）	障害者
122	小川要一「中世医書と兼好」（『日本文学』13-12、1964年）	医書・医学
123	服部敏良『鎌倉時代医学史の研究』（吉川弘文館、1964年）	医書・医学
124	圭室諦成「治病宗教の展開一中世前期まで」（『明治大学人文科学研究紀要』3、1964年）	治病祭祀
125	滝川政次郎「玉台新詠と律令及び医心方一小島・中西両氏の名著を読んで」（『国語と国文学』41-8・9、1964年）	医書・医学
126	渥美かをる「軍記の語りと享受一琵琶法師・物語僧の生態と聴衆」（『国文学』9-14、1964年）	障害者
127	貫達人「極楽寺と忍性について」（『金沢文庫研究』10-10・11、1964年）	治病者
128	竹岡八雄「憶良私考一沈痾自哀文を中心として」（『三重大学学芸学部研究紀要』31、1964年）	疾病観
129	富倉徳次郎・水原一「病臥・放生会・將軍罷職一卷四一《とはずがたり・四》」（『国文学』9-9、1964年）	疾病観
130	石田善人「室町時代の時衆について」（『仏教史学』11-3・4、1964年）	治療者
131	鈴木成元「法然と病気」（『印度学仏教学研究』12-1、1964年）	疾病観
132	松野純孝「鎌倉仏教と慈善救済」（結城教授頌寿記念論文集刊行会編『仏教思想史論集』大蔵出版、1964年）	治療者
133	小川鼎三『医学の歴史』（中央公論社、1964年）	医書・医学
134	福田晃「医者の家周辺〔日本文学の生活圏〕」（『国文学解釈と鑑賞』29-9、1964年）	医書・医学
135	石橋俊男「源氏物語「加持など参らせ給ふ」の解釈について」（『国文学』9-5、1964年）	治病祭祀
136	豊田武「中世賤民の存在形態」（『日本大学史学会研究彙報』8、1964年）	障害者
137	王丸勇「『医学天正記』における福島正則と淀君の症状について」（『日本医史学雑誌』10-4、1964年）	医書・医学
138	福田晃「太夫坊覚明と盲人の系譜」（『軍記と語り物』1、1964年）	障害者
139	中川美里「蛭児神話の一考察」（『女子大國文』39、1965年）	障害者
140	笠井昌昭「わが国における疫病の流行とその影響について」（『文化学年報』14、1965年）	疾病観
141	圭室諦成「治病宗教の展開一中世後期を中心として」（『駿台史学』16、1965年）	疾病観
142	堀口友一「疾病の歴史地理一文献にあらわれた日本の古代・中世の疾病について」（『地理』10-7、1965年）	疾病観
143	大久間喜一郎「古代における異類の人間の説話」（『人文科学論集』12、1965年）	障害者
144	酒井みさを「もののけについて一六条御息所のもののけを中心にみた」（『平安朝文学研究』11、1965年）	疾病観
145	大日方大乘『仏教医学の研究』（風間書房、1965年）	治病祭祀
146	鈴木成元「法然と風邪」（『日本歴史』201、1965年）	疾病観
147	福田晃「小栗照手譚の生成」（『國學院雑誌』66-11、1965年）	障害者
148	秋山光和「図版解説 病草紙（不眠の女）「京都 河本嘉久蔵氏蔵」（『美術研究』239、1966年）	疾病観
149	平井喜信「盲僧と琵琶との付会考序論」（『和洋国文研究』4、1966年）	障害者
150	堀口友一「日本の文献にあらわれた古代・中世の疾病に関する歴史地理学的研究」（『茨城大学教育学部紀要』15、1966年）	疾病観
151	岩瀬法雲「源氏物語と物の怪一源氏物語の精神」（『国語と国文学』43-7、1966年）	疾病観
152	岩瀬法雲「夕顔の巻の物の怪一門前教授の「おのがいとめでたしと見奉るをは」に対するお答え」（『文学・語学』41、1966年）	疾病観
153	村山修一「関東陰陽道の成立」（『史林』49-4、1966年）	治病祭祀
154	諸家「結婚と葬祭（誕生から成人まで、結婚、算賀の祝、葬式・年忌・服喪、衛生と病気、めかけ）」（『国文学』11-12、1966年）	疾病観
155	宮家準「修験道における調伏の論理」（『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』6、1966年）	治病祭祀

No.	著者：著書・論文 (雑誌・出版社、刊行年)	キーワード
156	長家脩「狂言の座頭」(『文学論集』7、1966年)	障害者
157	大谷旭雄「実範『病中修行記』について—その構成と念仏思想」(『仏教文化研究』13、1966年)	疾病観
158	梅津次郎「病草紙・三老人巻」(『日本美術工芸』330、1966年)	疾病観
159	佐竹昭広「弱者の運命—御伽草子と狂言」(『下剋上の文学』筑摩書房、1967年)	障害者
160	中野幡能「盲僧と琵琶楽」(『大分県立芸術短期大学研究紀要』6、1967年)	障害者
161	角川源義「語り物と地神盲僧」(『国文学解釈と鑑賞』32-9、1967年)	障害者
162	谷合侑「室町時代の盲人の活躍」(『東京教育大学附属盲学校研究紀要』1、1967年)	障害者
163	服部敏良「室町時代における足利学校の医学教育について」(『芸林』18-4、1967年)	医書・医学
164	佐藤親雄「瞽女考—その1 瞽女の縁起とその性格について」(『東京教育大学教育学部紀要』13、1967年)	障害者
165	服部敏良「医学からみた中世の文学者」(『中世文学』12、1967年)	医書・医学
166	服部敏良「医学的見地からみた『病草紙』」(『日本医師会雑誌』57-11、1967年)	医書・医学
167	堀口友一「日本の文献にあらわれた奈良時代までの疾病に関する歴史地理学的研究」(『大正大学研究紀要 仏教学部・文学部』52、1967年)	疾病観
168	白方勝「夕顔巻物の怪私見」(『源氏こぼれ草』3、1967年)	疾病観
169	重松信弘「源氏物語の陰陽道」(『源氏こぼれ草』3、1967年)	治病祭祀
170	飯田吉郎「『医心方房内篇書』書き下し (続・秘められた文学)」(『解釈と鑑賞』32-5、1967年)	医書・医学
171	杉靖三郎「医心方房内篇書き下し (続・秘められた文学)」(『解釈と鑑賞』32-5、1967年)	医書・医学
172	門前真一「夕顔の巻のものけをめぐる諸問題—「をば」の感動表現説批判」(『国文学』12-9、1967年)	疾病観
173	谷合侑「古代における盲人の社会的地位」(『盲教育』23、1967年)	障害者
174	谷合侑「鎌倉時代における盲人の社会的地位 (1)」(『盲教育』24、1967年)	障害者
175	平沢正夫「『病草紙』の医学的価値」(『芸術生活』20-8、1967年)	医書・医学
176	横井清「河原者」(『社会科学大事典』3、鹿島研究所出版会、1968年)	障害者
177	谷合侑「中世における民衆の中の盲人像—狂言に現れた盲人」(『東京教育大学附属盲学校研究紀要』2、1968年)	障害者
178	服部敏良「藤原定家の「咳病」の本態について—「明月記」の医学的考察」(『日本歴史』197、1968年)	疾病観
179	服部敏良「言継卿記の医学的考察」(『日本歴史』239、1968年)	疾病観
180	服部敏良「室町時代における時衆の医療活動」(『時衆研究』30、1968年)	医書・医学
181	三浦圭一「下剋上の時代の一側面—嬰兒殺害・一色田・散所」(『ヒストリア』50、1968年)	障害者
182	大塚恭男「附子の医史的考察 (古代・中世)」(『日本東洋医学会誌』19-2、1968年)	医書・医学
183	吉岡曠「発病前夜の紫上」(『むらさき』7、1968年)	疾病観
184	杉本圭三郎「平家物語の変貌—琵琶法師の語りにおいて」(『文学』36-10、1968年)	障害者
185	藤原勉「蘇民将来と午頭天王」(『東北福祉大学論叢』7、1968年)	治病祭祀
186	徳江元正「『高野物狂』論」(『國學院雑誌』69-4、1968年)	疾病観
187	浜田坡牛「万葉名歌講和 (230)—山上憶良沈痾自哀文一首 (1)」(『富士』22-5、1968年)	疾病観
188	浜田坡牛「万葉名歌講和 (231)—山上憶良沈痾自哀文一首 (2)」(『富士』22-6、1968年)	疾病観
189	浜田坡牛「万葉名歌講和 (232)—山上憶良沈痾自哀文一首 (3)」(『富士』22-7、1968年)	疾病観
190	浜田坡牛「万葉名歌講和 (233)—憶良の沈痾自哀文 (4) から悲歎俗道無常詩 (並序上) まで」(『富士』22-8、1968年)	疾病観
191	岩佐貫三「日本陰陽道のある習合形態 (一)—祇園神にみる冥府思想と陰陽道思想のむすびつき」(『印度学仏教学研究』17-1、1968年)	治病祭祀
192	石原明「頓医抄巻第四十五交接等治」(『解釈と鑑賞』33-9、1968年)	医書・医学
193	山田勝義「『ものけ』原義考」(『国文学論集』(上智大学)1、1968年)	疾病観

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	キーワード
194	白田甚五郎「もののけの文学—『源氏物語』を軸として」（『國學院雑誌』69-4、1968年）	疾病観
195	中西進『万葉史の研究』（桜楓社、1968年）	疾病観
196	鈴木修二「今昔物語集における病者と治療者」（『日本歴史』243、1968年）	治療者
197	秋山光和『原色日本の美術8 絵巻物』（小学館、1968年）	疾病観
198	佐藤親雄「瞽女考—その2 瞽女の特権、活動、史的意義について」（『東京教育大学教育学部紀要』15、1969年）	障害者
199	富士川游『日本疾病史』（東洋文庫）（平凡社、1969年）	医書・医学
200	中村義雄「王朝女流作家の生活—服装、食物、住居、恋愛と結婚、出産・病気、宮仕え、旅、神仏、もののけ、年中行事、祭祀」（『国文学』14-6、1969年）	疾病観
201	梶原正昭「琵琶法師の生活（その2）」（『古典遺産』8、1969年）	障害者
202	岩佐貫三「呪禁師の性格—仏教渡来時の日本の実態とそのとらえかた」（『印度学仏教学研究』18-1、1969年）	治病者
203	上村悦子「出産・病気（王朝女流作家の生活）」（『国文学』14-6、1969年）	疾病観
204	古代学協会編『延喜天曆時代の研究』（吉川弘文館、1969年）	疾病観
205	山崎馨「万葉集研究手記鈔録」（『研究紀要』（阪大医療技術短大部）1、1969年）	疾病観
206	徳江元正「もののけ（王朝女流作家の生活）」（『国文学』14-6、1969年）	疾病観
207	林亮勝「護持僧考—護持院隆光の場合」（『密教学研究』1、1969年）	治病者
208	北川忠彦「狂言とかたわ者」（『民俗芸能』40、1970年）	障害者
209	脇田晴子「散所の成立をめぐる—林屋辰三郎氏の反批判にこたえる」（『日本史研究』113、1970年）	障害者
210	井上満郎「散所—その語源論について」（『日本史研究』114、1970年）	障害者
211	丹生谷哲一「散所発生の歴史的意義—律令官制との関連について」（『日本歴史』268、1970年）	障害者
212	山田重正「梶原性全とその周囲—鎌倉時代に於ける僧医の伝記補遺」（『花園大学研究紀要』1、1970年）	医書・医学
213	呉哲男「不具の物知人—伝承文芸に見る詭弄の論理」（『古典学』3、1970年）	障害者
214	村山修一「院政期の陰陽道」（『史料』53-2、1970年）	治病祭祀
215	久保田収「祇園御霊会の成立」（『皇學館大学紀要』8、1970年）	治病祭祀
216	久保田収「祇園社と陰陽道」（『神道史研究』18-2、1970年）	治病祭祀
217	小杉達「祇園社の社僧—上」（『神道史研究』18-2、1970年）	治病祭祀
218	小杉達「祇園社の社僧—下」（『神道史研究』18-3、1970年）	治病祭祀
219	二木謙一「祇園会御成」（『國學院大學日本文化研究所紀要』26、1970年）	治病祭祀
220	久保田収「祇園社と陰陽道」（『神道史研究』18-2、1970年）	疾病観
221	妹島礼子「『源氏物語』に現れた六条御息所の性格ともののけ」（『国語国文論集』1、1970年）	疾病観
222	笠原伸夫「日本文学における狂気の系譜」（『国文学』15-11、1970年）	疾病観
223	安藤俊雄「治病方としての天台止観」（『大谷大学研究年報』23、1970年）	治病祭祀
224	石田瑞麿「祈祷としての受戒」（『日本宗教の現世利益』大蔵出版、1970年）	治病祭祀
225	萩谷朴「御加持まゝり給ふ足音—紫式部日記の本文批評（8）」（『解釈』16-6、1970年）	治病祭祀
226	白畑よし編『日本の美術49 物語絵巻』（至文堂、1970年）	疾病観
227	北川忠彦「狂言とかたわ者」（『民俗芸能』40、1970年）	障害者
228	井上正一「不具の子を捨てる民俗—靈異記の民俗史料—」（『日本歴史』282、1971年）	障害者
229	樋口誠太郎「奈良時代に於ける僧侶の才芸としての医療」（『日本医学史雑誌』17-3、1971年）	疾病観
230	棚町知弥「御霊会史料集（一）—北野社古記録（文学・芸能記事）抄（三）—」（『有明工業高等専門学校紀要』7、1971年）	治病祭祀
231	金井清光「物狂いの狂言から狂言劇へ」（『国語と国文学』48-7、1971年）	疾病観

No.	著者：著書・論文 (雑誌・出版社、刊行年)	キーワード
232	村山修一「源氏物語と陰陽道・宿曜道」(『源氏物語講座5』、1971年)	治病祭祀
233	山下宏明「平家物語と琵琶法師—その抒情的側面をめぐって」(『文学』39-2、1971年)	障害者
234	大熊房太郎「中世のハンセン病 (医史にみる医の倫理 -5-)」(『臨床科学』8 (5)、1972年)	障害者
235	宮崎吉平「養老令にみる奈良時代の疾病観と疾病」(『日本医史学雑誌』18-2、1972年)	疾病観
236	日野英子「出挙稲から眺めた奈良時代農民の死亡」(『日本医史学雑誌』18-4、1972年)	疾病観
237	樋口誠太郎「吾妻鏡を中心として見た鎌倉の医師」(『日本医史学雑誌』18-4、1972年)	治病者
238	渥美かをる「平家と琵琶法師—中院家が支配した琵琶法師の座を中心として—」(『古典と近代文学』12、1972年)	障害者
239	河野勝行「障害者差別の成立と階級支配—古事記・日本書紀の蛭児『神話』の批判的検討を通して」(『障害者問題研究』1、1973年)	障害者
240	長野正「『蛭児』考」(『東京教育大学文学部紀要』91、1973年)	障害者
241	石川光三「『沈痾自哀文』の生老病死について」(『半田万葉会報』2、1973年)	疾病観
242	新村拓「藤原宮出土の典薬寮関係木簡考」(『日本医史学雑誌』19-1、1973年)	医書・医学
243	日野英子「正倉院文書より得たる人口ピラミッド」(『日本医史学雑誌』19-1、1973年)	疾病観
244	新村拓「写経生と病気」(『日本医史学雑誌』19-2、1973年)	疾病観
245	村山修一「万葉集と陰陽道」(『万葉集講座2 (思想と背景)』有精堂、1973年)	治病祭祀
246	岸俊男「籍帳にみえる残疾・廢疾・篤疾」(『日本古代籍帳の研究』塙書房、1973年)	障害者
247	横井清「中世民衆における「癩者」と「不具」の問題—下剋上の文化・再考」(『花園大学研究紀要』5、1974年)	障害者
248	河野勝行『日本の障害者—過去・現在および未来』(ミネルヴァ書房、1974年)	障害者
249	新村拓「『唐律令』および『養老律令』における有疾獄囚の待遇について」(『日本医史学雑誌』20-2、1974年)	疾病観
250	樋口誠太郎「絵巻物に描かれた日本の医療」(『日本医史学雑誌』20-2、1974年)	疾病観
251	新村拓「咒禁師及び按摩師について (上)」(『日本医史学雑誌』20-4、1974年)	治病者
252	岩佐貫三「陰陽道祭文と修験道祭文—牛頭天王祭文を例として—」(『印度学仏教学研究』45、1974年)	治病祭祀
253	服部敏良『王朝貴族の病状診断』(吉川弘文館、1975年)	医書・医学
254	横井清『中世民衆の生活文化』(東京大学出版会、1975年)	障害者
255	黒田俊雄「中世の身分制と卑賤観念」『日本中世の国家と宗教』(岩波書店、1975年)	障害者
256	速水侑『平安貴族社会と仏教』(吉川弘文館、1975年)	治病祭祀
257	新村拓「咒禁師及び按摩師について (下)—日本古代医療史の研究 (2)」(『日本医史学雑誌』21-1、1975年)	治病者
258	樋口誠太郎「中世における祈祷と医療」(『日本医史学雑誌』21-3、1975年)	治病祭祀
259	新村拓「諸官衛及び諸使医師—日本古代医療史の研究 3—」(『日本医史学雑誌』21-3、1975年)	治病者
260	金子清光「狂言の物狂い」(白田甚五郎博士還暦記念論文集編集委員会編『日本文学の伝統と歴史』桜楓社、1975年)	疾病観
261	佐々木巧一「『海道下り』の道行文—琵琶法師の詞章」(白田甚五郎博士還暦記念論文集編集委員会編『日本文学の伝統と歴史』桜楓社、1975年)	障害者
262	横井清「民衆文化の形成」(『岩波講座 日本歴史 中世三』、岩波書店、1976年)	障害者
263	大山喬平「奈良坂・清水坂両宿非人抗争雑考」(『日本史研究』169、1976年)	障害者
264	網野善彦「非人に関する一史料」(『年報中世史研究』1、1976年)	障害者
265	家永三郎「六道絵とその歴史」(『新修日本絵巻物全集七 地獄草紙・餓鬼草紙・病草紙』角川書店、1976年)	疾病観
266	服部敏良「病草紙の医学的解説」(『新修日本絵巻物全集七 地獄草紙・餓鬼草紙・病草紙』角川書店、1976年)	疾病観

V. 日本古代・中世疾病 疾病観論文目録

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	キーワード
267	小松和彦「護法信仰論覚書—治療儀礼における「物怪」と「護法」」（『現代宗教』7、1976年）	治病祭祀
268	新村拓「国医師について—日本古代医療史の研究（3）」（『日本医史学雑誌』22-1、1976年）	治病者
269	新村拓「鎮守府医師と大宰府医師について—日本古代医療史の研究（4）」（『日本医史学雑誌』22-3、1976年）	治病者
270	関根正雄「仏典のなかの耆婆とその医療」（『日本医史学雑誌』22-4、1976年）	疾病観
271	榎本由喜雄「盲僧琵琶について」（本田安次博士古稀記念会編『芸能論纂』錦正社、1976年）	障害者
272	新村拓「古代における施薬悲田院について」（『日本歴史』343、1976年）	治病者
273	小松茂美「餓鬼・地獄・病草紙と六道絵」（『日本絵巻物大成七 餓鬼草紙・地獄草紙・病草紙・九相図絵巻』中央公論社、1977年）	疾病観
274	泰井俊三「古経「治禪病秘要法」とそれが我国の精神医療に及ぼした影響について」（『日本医史学雑誌』23-1、1977年）	医書・医学
275	服部敏良「平安時代の心身症—藤原道長を中心として」（『日本医史学雑誌』23-3、1977年）	医書・医学
276	久米幸雄「薬王寺考」（『日本医史学雑誌』23-3、1977年）	治病者
277	新村拓「記紀神話と医療（上）」（『日本医史学雑誌』24-3、1978年）	疾病観
278	久米幸夫「庶民と国医師」（『日本医史学雑誌』24-4、1978年）	治病者
279	新村拓「記紀神話と医療（下）」（『日本医史学雑誌』24-4、1978年）	疾病観
280	青木清彦「版本「九相詩」成立考」（『仏教文学』2、1978年）	疾病観
281	久米幸夫「悲田院の沿革と終焉—その2～3の疑問—」（『日本医史学雑誌』25-1、1979年）	疾病観
282	久米幸夫「薬王寺及び西悲田院の所在位置について」（『日本医史学雑誌』25-4、1979年）	治病者
283	下田忠「山上憶良の表現—老身重病経年辛苦及思児等歌の構造—」（『解釈』26-3、1980年）	疾病観
284	榎佐知子「医心方に見る王朝の宫廷医学 風病と治療例」（『国文学』25-5、1980年）	医書・医学
285	榎佐知子「医心方に見る王朝の宫廷医学 疫病の予防と治療」（『国文学』25-6、1980年）	医書・医学
286	山田昭全「『発心集』雑考」（『文学と仏教』1、1980年）	疾病観
287	丹生谷哲一「中世における非人施行と公武政権」（『歴史研究』〈大阪教育大学〉17、1980年）	障害者
288	丹生谷哲一「検非違使とキヨメ」（『ヒストリア』87、1980年）	障害者
289	松尾剛次「中世非人に関する一考察—西大寺流による非人支配」（『史学雑誌』89-2、1980年）	障害者
290	細川涼一「中世前期の非人について」（『研究年報』〈中央大・院〉9、1980年）	障害者
291	森竜吉「鎌倉仏教と賤民」（『歴史公論』55、1980年）	障害者
292	追塩千尋「忍性の宗教活動について」（『仏教史学研究』22-2、1980年）	障害者
293	新村拓「古代国家の医師の診療形態について—往診と宅診—」（『日本医史学雑誌』26-1、1980年）	治病者
294	久米幸夫「古代における民間医の変遷」（『日本医史学雑誌』26-2、1980年）	治病者
295	関根正雄「長谷寺験記にみる治病の利生」（『日本医史学雑誌』26-4、1980年）	疾病観
296	佐野みどり「病草紙研究」（『国華』1039・1040、1981年）	疾病観
297	小町谷照彦「紫の上の憂愁と発病—紫の上論（4）」（『講座源氏物語の世界』6、1981年）	疾病観
298	石尾芳久「民衆運動からみた中世の非人」（三一書房、1981年）	障害者
299	松尾剛次「天皇支配権と中世非人支配」（『日本歴史』394、1981年）	障害者
300	樋口誠太郎「古京出土遺物の歴史学的研究—その1—木簡について—」（『日本医史学雑誌』27-4、1981年）	医書・医学
301	湯川久光「天武挽歌と陰陽道—天武挽歌論序説—」（『上代文学』47、1981年）	治病祭祀
302	村山修一『日本陰陽道史総説』（塙書房、1981年）	治病観
303	飯沼清子「源氏物語における〈病〉描写の意味—表現論の一環として—」（『国学院雑誌』83-2、1982年）	疾病観
304	黒田俊雄「中世社会論と非人」（『部落問題研究』74、1982年）	障害者

No.	著者：著書・論文 (雑誌・出版社、刊行年)	キーワード
305	黒田日出男「史料としての絵巻物と中世身分制」(『歴史評論』382、1982年)	障害者
306	黒田日出男「中世民衆の皮膚感覚と恐怖」(『歴史学研究』別冊特集号、1982年)	障害者
307	松尾剛次「開発と中世非人」(『史学論集』〈山形大〉2、1982年)	障害者
308	網野善彦「蓑笠と柿帷」(『is』総特集〈ポーラ文化研〉、1982年)	障害者
309	細川涼一「非人宿の分化—中世後期から近世初期の長史と癩者を中心に—」(『新しい歴史学のために』169、1982年)	障害者
310	樋口誠太郎「古京出土遺物の医史学的研究 (その2)—人形・人面墨書・土器などについて」(『日本医史学雑誌』28-3、1982年)	医書・医学
311	小坂真二「村山修一著『日本陰陽道史総説』」(『日本歴史』409、1982年)	治病祭祀
312	加美宏「平家物語の受容 琵琶法師」(『別冊国文学』15、1982年)	障害者
313	後藤安彦『逆光の中の障害者たち』(千書房、1982年)	障害者
314	酒井シヅ『日本の医療史』(東京書籍、1982年)	医書・医学
315	河野勝行「わが国古代末期から中世初頭における障害者観—触穢思想による「非人(キヨメ)・五体不具」説の形成」(『季刊科学と思想』49、1983年)	障害者
316	新村拓『古代医療官人制の研究』(法政大学出版局、1983年)	治病者
317	村山七郎「大野晋博士のカッタイ「癩人」語源説」(『解釈』29-3、1983年)	障害者
318	細川涼一「中世の身分制と非人」(『歴史学研究』別冊特集号、1983年)	障害者
319	松木明知「欽明朝に來日した百濟の醫師王有稜陀について」(『日本医史学雑誌』29-4、1983年)	治病者
320	田中敏子「忍性菩薩行実編年史について」(『鎌倉』44、1983年)	治病者
321	和島芳男「忍性菩薩伝—中世における戒律復興の史的研究」(『日本名僧論集5』吉川弘文館、1983年)	治病者
322	川岸宏教「忍性と四天王寺—御手印縁起信仰の展開」(『日本名僧論集5』吉川弘文館、1983年)	治病者
323	吉田文夫「忍性の社会事業について」(『日本名僧論集5』吉川弘文館、1983年)	治病者
324	加美宏「琵琶法師—平曲—」(『解釈と鑑賞』48-15、1983年)	障害者
325	赤坂憲雄「琵琶法師(上)—異人(まれびと)論の視座から—」(『日本文学』32-4、1983年)	障害者
326	赤坂憲雄「琵琶法師(下)—異人(まれびと)論の視座から—」(『日本文学』32-6、1983年)	障害者
327	東丸恭子「中世社会と癩」(『上智史学』29、1984年)	障害者
328	肥留川嘉子「説経『しんとく丸』論(上)」(『芸能史研究』87、1984年)	障害者
329	高取正男「御霊会の成立と初期平安京の住民」(柴田實編『御霊信仰(民衆宗教史叢書5)』雄山閣、1984年)	治病祭祀
330	柴田実「祇園御霊会—その成立と意義」(柴田實編『御霊信仰(民衆宗教史叢書5)』雄山閣、1984年)	治病祭祀
331	岩崎雅彦「鳥帽子姿の女体能—白拍子・女曲舞・女物狂い—」(『芸能文化史』6、1984年)	疾病観
332	田中敏子「忍性菩薩行実編年史について(二)」(『鎌倉』45、1984年)	治病者
333	田中敏子「忍性菩薩行実編年史について(三)」(『鎌倉』46、1984年)	治病者
334	田中敏子「忍性菩薩行実編年史について(四)」(『鎌倉』47、1984年)	治病者
335	斉藤博久「日本古代律令籍帳障害者考」(『古代史の研究』6、1984年)	障害者
336	奥富敬之「中世僧医に関する基礎的研究」(『日本医科大学基礎科学紀要』48、1984年)	治病者
337	槇佐知子『日本の古代医療—光源氏が医者にかかるとき』(築地書館、1984年)	医書・医学
338	新村拓『日本医療社会史の研究』(法政大学出版局、1985年)	治病者/治病祭祀
339	脇田晴子「中世被差別民の生活と社会」(部落問題研究所編『部落の歴史と解放運動 前近代篇』部落問題研究所出版部、1985年)	障害者
340	小山靖憲「中世賤民論」(『岩波講座 日本歴史四 中世二』、岩波書店、1985年)	障害者
341	峰岸純夫「中世の身分制研究と下人身分の特質」(『中世の法と権力』〈中世史講座4〉学生社、1985年)	障害者
342	網野善彦「古代・中世の悲田院をめぐる」(『北西論叢II』、1985年)	治病者

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	キーワード
343	南里みち子「浄蔵法師の説話（五）―病者治療の説話―」（『福岡女子短大紀要』30、1985年）	治病祭祀
344	肥留川嘉子「説経『しんとく丸』論（下）」（『芸能史研究』88、1985年）	障害者
345	三迫初男「中国古代医学と医心方」（『日本医史学雑誌』31-3、1985年）	医書・医学
346	小曾戸洋「新出の『医心方』古写零本巻27―現存した国宝仁和寺本の僚本―」（『日本医史学雑誌』31-4、1985年）	医書・医学
347	田中敏子「忍性菩薩行実編年史について（五）」（『鎌倉』48、1985年）	治病者
348	田中敏子「忍性菩薩行実編年史について（六）」（『鎌倉』49、1985年）	治病者
349	田中敏子「忍性菩薩行実編年史について（七）」（『鎌倉』50、1985年）	治病者
350	五来重「平安貴族と陰陽道」（『平安貴族の生活』有精堂、1985年）	治病祭祀
351	藤原良章「中世前期の病者と救済」（『列島の文化史』三、日本エディタースクール出版部、1986年）	疾病観
352	黒田日出男『境界の中世 象徴の中世』（東京大学出版会、1986年）	障害者
353	河田光夫「親鸞と被差別民（3）」（『文学』54-1、1986年）	障害者
354	河田光夫「親鸞と被差別民（4）」（『文学』54-3、1986年）	障害者
355	河田光夫「親鸞と被差別民（5）」（『文学』54-5、1986年）	障害者
356	田上隆司「法然・親鸞・一遍と障害者観」（『作新学院女子短期大学紀要』10、1986年）	障害者
357	岡内弘子「老身重病の歌 憶良文学の到達点」（『香川大学教育学部研究報告（第1部）』66、1986年）	疾病観
358	西木忠一「兼家病臥をめぐって」（『滋賀大國文』24、1986年）	疾病観
359	鈴木恵「関戸家本病草紙総索引」（『東洋大学短期大学紀要』17、1986年）	疾病観
360	小曾戸洋「『小品方』序説―現存した古卷子本」（『日本医史学雑誌』32-1、1986年）	医書・医学
361	小曾戸洋「『医心方』引用文献名索引（1）」（『日本医史学雑誌』32-1、1986年）	医書・医学
362	東野治之「河内金剛寺新出の鎌倉時代書写『医心方』巻第13について」（『日本医史学雑誌』32-3、1986年）	医書・医学
363	中村昭「流布本『大同類聚方』における麻疹と痘瘡」（『日本医史学雑誌』32-3、1986年）	医書・医学
364	小曾戸洋「『医心方』引用文献名索引（2）」（『日本医史学雑誌』32-3、1986年）	医書・医学
365	山路興造「祇園御霊会の芸能―長童・久世舞車・羯鼓稚児」（『芸能史研究』94、1986年）	治病祭祀
366	増尾伸一郎「御霊会における〈呪符〉と〈童〉―『年中行事絵巻』と近年出土の呪術関係遺物をめぐって」（『跡見学園女子大学紀要』19、1986年）	治病祭祀
367	高橋渉「寛治八年の「稲荷御霊会」」（『朱』20、1986年）	治病祭祀
368	田中敏子「忍性菩薩行実編年史について（八）」（『鎌倉』51、1986年）	治病者
369	田中敏子「忍性菩薩行実編年史について（補遺）」（『鎌倉』52、1986年）	治病者
370	白石一美「日向国の琵琶法師」（『宮崎大学教育学部紀要（人文科学）』59、1986年）	障害者
371	加美宏「琵琶法師と平家物語」（『国文学』31-7、1986年）	障害者
372	野部弘「『平家物語』の一側面（2）―境界と琵琶法師」（『稲沢女子短期大学研究紀要』7、1986年）	障害者
373	丹生谷哲一「中世前期における非人」（『検非違使―中世のけがれと権力―』平凡社、1986年）	障害者
374	横佐知子『医心方の世界―古代の健康法をたずねて』（自然社、1986年）	医書・医学
375	河野勝行『障害者の中世』（文理閣、1987年）	障害者
376	横井清「中世人と「やまい」（『生活感覚と社会』〈日本の社会史8〉岩波書店、1987年）	疾病観
377	大石雅章「非人救済と聖朝安穩」（『国家と天皇』〈大系仏教と日本人2〉春秋社、1987年）	障害者
378	追塩千尋「平安初期の地方救療施設について」（『日本仏教史学』22、1987年）	治病者
379	久保田淳「徒然草評釈・百気のがる病ありて」（『国文学』32-15、1987年）	疾病観
380	千本英史「『かたみ』考―説話における癩者の問題」（『大阪教育大学紀要』36-1、1987年）	障害者
381	速水侑「呪術宗教の世界―密教修法の歴史』（塙書房、1987年）	治病祭祀

No.	著者：著書・論文 (雑誌・出版社、刊行年)	キーワード
382	中村昭「中世の流行病「三日病」についての検討」(『日本医史学雑誌』33-4、1987年)	疾病観
383	小曾戸洋「カラホト出土マスペロ文書No.478について—未宋改元刻『千金方』の存在—」(『日本医史学雑誌』33-2、1987年)	医書・医学
384	真柳誠「『小品方』に見る疾病背景の分析と服薬指示—治療と養生の接点について—」(『日本医史学雑誌』33-4、1987年)	医書・医学
385	中村昭「多聞院英俊の病跡—梅毒を中心として—」(『日本医史学雑誌』33-4、1987年)	疾病観
386	兵藤裕己「平家琵琶溯源—パンソリ・説経・盲僧琵琶など」(『解釈と鑑賞』52-3、1987年)	障害者
387	岡田荘司「平安時代の稲荷祭と祇園御霊会」(『朱』31、1987年)	治病祭祀
388	谷口卓久「『平家物語』の語り—琵琶法師の相貌」(『日本文学誌要』38、1987年)	障害者
389	佐々木巧一「『心の中推し量られて哀なり』—琵琶法師の詞章 その二」(『野州国文学』39、1987年)	障害者
390	野部弘「境界と琵琶法師補遺」(『稲沢女子短期大学研究紀要』8、1987年)	障害者
391	中村昭「明月記における瘡疾の検討」(『日本医史学雑誌』33-2、1987年)	疾病観
392	沼田武彦「古代日本における障害者観の形成」(『日本史論叢』11、1987年)	障害者
393	田中文英「中世顕密寺院における修法の一考察」(『中世寺院史の研究』上、1988年)	治病祭祀
394	藤本佳男「悲田院とその周辺」(日野昭博士還暦記念会編『歴史と伝承』永田文昌堂、1988年)	治病者
395	宮城洋一郎「光明皇后の悲田院・施薬院をめぐる」(西光義敬編『援助的人間関係』永田文昌堂、1988年)	治病者
396	朝枝善照「看病禪師考」(西光義敬編『援助的人間関係』永田文昌堂、1988年)	治病者
397	平野不退「日本古代の僧団における看病」(西光義敬編『援助的人間関係』永田文昌堂、1988年)	疾病観
398	丹生谷哲一「中世賤民研究雑考」(『歴史研究』〈大阪教育大学〉25、1988年)	障害者
399	中村昭「『明月記』における瘡疾の検討 (続報)」(『日本医史学雑誌』34-3、1988年)	疾病観
400	納富常天「研究余録 真言僧忍性」(『日本歴史』479、1988年)	治病者
401	網野善彦「中世の「非人」をめぐる二、三の問題」(『立命館文学』509、1988年)	障害者
402	加美宏「琵琶法師と太平記読み」(『解釈と鑑賞』53-13、1988年)	障害者
403	米山孝子「『日本霊異記』中巻第三十縁考—「子を淵に捨てる」説話の成立事情—」(『仏教文学』13、1989年)	障害者
404	池見澄隆「日本人の仏教的病気観—古代から近代までの一系譜 (仏教の生命観)」(『日本仏教学会年報』55、1989年)	疾病観
405	丹生谷哲一「中世における他者認識の構造」(『歴史学研究』594、1989年)	障害者
406	網野善彦「遊女と非人・河原者」(『性と差別』〈大系仏教と日本人8〉春秋社、1989年)	障害者
407	横井清「賤視と救済」(『性と差別』〈大系仏教と日本人8〉春秋社、1989年)	障害者
408	中野玄三『六道絵の研究』(淡交社、1989年)	疾病観
409	田中登「〈複〉新出の病草紙詞書断簡について」(『汲古』15、1989年)	疾病観
410	新村拓『死と病と看護の社会史』(法政大学出版局、1989年)	疾病観
411	橋本義彦「歴史手帖忍性の三つの舍利瓶」(『日本歴史』488、1989年)	治病者
412	今市優子「貞観5年御霊会の成立について」(『文化史学』45、1989年)	治病祭祀
413	三浦圭一『日本中世賤民史の研究』(部落問題研究所、1990年)	障害者
414	下坂守「中世非人の存在形態」(『芸能史研究』110、1990年)	障害者
415	永井彰子「盲僧琵琶の道」(『大系・日本歴史と芸能』平凡社、1990年)	障害者
416	鉄野昌弘「転換期の家持—「臥病」の作をめぐる」(上代文学研究会編『日本上代文学論集 (稲岡耕二先生還暦記念)』塙書房、1990年)	疾病観
417	大森恵子「病氣平癒祈願と稲荷信仰—特に瘡瘡・瘡などの平癒祈願を中心として」(『朱』34、1990年)	治病祭祀
418	下坂守「中世非人の存在形態 —清水坂「長棟堂」考—」(『芸能史研究』110、1990年)	障害者

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	キーワード
419	杉田暉道「奈良時代の医療の実態」（『日本医史学雑誌』36-2、1990年）	治病祭祀
420	砂川博「琵琶法師考」（『軍記と語り物』26、1990年）	障害者
421	河野勝行「流し棄てられた障害児—「蛭子」を通して日本古代の障害者を考える—」（『古代天皇制への接近』文理閣、1990年）	障害者
422	斉藤博久「日唐の律令制度における障害者認識について」（『古代史の研究』8、1990年）	障害者
423	三崎裕子「『靈異記』にみえる病と看病」（平野邦雄編『日本靈異記の原像』角川書店、1991年）	疾病観
424	繁田信一「平安中期貴族社会における陰陽師」（『論集』〈東北大・印度学宗教学会〉18、1991年）	治病者
425	佐藤保「日東の病僧—唐詩と日本人留学僧」（『高校通信東書国語』318、1991年）	疾病観
426	神尾暢子「源氏物語の疾病規定」（『源氏物語の探究』16、1991年）	疾病観
427	杉立義一『医心方の伝来』（思文閣出版、1991年）	医書・医学
428	小曾戸洋、杉立義一「新出の国宝仁和寺本「医心方」零葉—巻19第59葉—」（『日本医史学雑誌』37-1、1991年）	医書・医学
429	杉立義一「『医心方』の伝来から見た日本医学史の一側面」（『日本医史学雑誌』37-2、1991年）	医書・医学
430	野部弘「琵琶法師再考」（『稲沢女子短期大学研究紀要』13、1991年）	障害者
431	新村拓『老いと看取りの社会史』（法政大学出版局、1991年）	疾病観
432	丹波康頼『国宝半井家本医心方』全9冊（一～六影印、日本医学叢書活字本、仁和寺本影写本・多紀家旧蔵本、医心方の研究）（オリエント出版、1991～1994年）	医書・医学
433	神原正明「『疫病』のシンボリズム—中世末期における「医療」と「信仰」の図像学」（神戸学院大学『人文学部紀要』5、1992年）	疾病観
434	藤本佳男「障害者差別の歴史的背景」（『龍谷史壇』99・100、1992年）	障害者
435	谷口美樹「平安貴族の疾病認識と治療法」（『日本史研究』364、1992年）	治病祭祀
436	勝田至「中世触穢思想再考」（『日本史研究』356、1992年）	障害者
437	千本英史「『かたは』考—身体障害の表現」（『奈良女子大学文学部研究年報』35、1992年）	障害者
438	福永光司「元気と病氣—中国古代の生命の哲学」（『思想』814、1992年）	疾病観
439	東茂美「病との対峙—「沈痾自哀文」論2」（『福岡女学院大学紀要』2、1992年）	疾病観
440	大久保広行「老身重病歌の論—憶良文学の帰結」（尾畑喜一郎編『記紀万葉の新研究』桜風社、1992年）	疾病観
441	新井孝重「病い・漂泊・芸能の構造—中世民衆生活論のこころみ」（『独協大学教養諸学研究』26-2、1992年）	疾病観
442	今井正之助「後醍醐怨霊譚の機構—『太平記』巻二十三「上皇祈精直義病悩之事」を中心に」（『国語国文学報』50、1992年）	疾病観
443	西山克「幼童の病いと治療—『北野曼荼羅』を読む」（『芸能』34-3、1992年）	治病祭祀
444	宮内徹「紫の上発病—擬似親子関係の視点から」（『古典文学論注』3、1992年）	疾病観
445	五島邦治「平安京近郊の御霊会—ふたつの今宮を中心として」（『古代文化』44-12、1992年）	治病祭祀
446	細川涼一「能と中世の狂気・物狂い—漂泊する精神」（赤坂憲雄編『漂泊する眼差し』新曜社、1992年）	疾病観
447	宮崎浩「貞観5年御霊会の政治史的考察」（『史学研究』198、1992年）	治病祭祀
448	松前健「病氣と治療—古典神話から見た」（古橋信孝・三浦祐之・森朝男編『自然と技術（古代文学講座）』2、勉誠社、1993年）	治病祭祀
449	東茂美「東アジアのなかの〈病〉—憶良の「沈痾自哀文」一斑」（『日本文学』42-1、1993年）	疾病観
450	三谷邦明「病める朱雀院—あなたとの対話あるいは源氏物語の繕った綻び」（『源氏物語作中人物論集』、1993年）	疾病観
451	清水教子「『小右記』における病氣・怪我に関する表現」（『岡大文学論稿』21、1993年）	疾病観
452	宮川葉子「三条西実隆の出家と病」（『季刊ぐんしょ』6-3、1993年）	疾病観
453	上田純一「東福寺と西大寺—治病文殊信仰をめぐる」（『日本歴史』537、1993年）	治病祭祀
454	新村拓「時衆・遊行聖における病」（一遍研究会編『一遍聖絵と中世の光景』ありな書房、1993年）	疾病観

No.	著者：著書・論文 (雑誌・出版社、刊行年)	キーワード
455	田中久夫「備前・備中の陰陽師の占める位置－奈良・平安朝初期を中心として」(『生活文化研究所年報』7、1993年)	治病者
456	梶原正昭「琵琶法師と『平家物語』」(『りんどう』18、1993年)	障害者
457	砂川博「〈翻・複〉 尼崎大覚寺文書・琵琶法師・中世律院」(『北九州大学文学部紀要』48、1993年)	障害者
458	酒向伸行「憑霊と治病一瘡 (オコリ) の事例を中心として」(『御影史学論集』18、1993年)	治病者
459	横佐知子『今昔物語と医術と呪術』(築地書館、1993年)	医書・医学
460	横佐知子『医心方』1～30巻 (筑摩書房、1993年～2012年)	医書・医学
461	大久保広行「憶良と旅人－老・病・死の意識と文学的創造」(上代文学会編『憶良 人と作品』笠間書院、1994年)	疾病観
462	青木毅「『今昔物語集』撰者の用語選択に関する一考察－“発病”を表す動詞句の改変をめぐって」(『日本文学・語学論攷』、1994年)	疾病観
463	樋口誠太郎「金沢貞顕文書の医史学的研究」(『日本医史学雑誌』40-2、1994年)	医書・医学
464	王鉄策、小曾戸洋、真柳誠「日中韓古医籍の所蔵目録」(『日本医史学雑誌』40-4、1994年)	医書・医学
465	藤本勝義「物の怪の史実・記録と源氏物語」(『古典ライブラリー四 源氏物語の〈物の怪〉－文字と記録の狭間』笠間書院、1994年)	疾病観
466	瀬田勝哉「伊勢の神をめぐる病と信仰」(『洛中洛外の群像 失われた中世京都へ』平凡社、1994年)	治病祭祀
467	広瀬浩二郎「日本文化史と中世盲僧」(『芸能史研究』127、1994年)	障害者
468	丹生谷哲一「非人・河原者・散所」(朝尾直弘他編『岩波講座日本通史』8、1994年)	障害者
469	柳原敏昭「安倍有世論－足利義満に仕えた陰陽師」(『中世の政治と宗教』吉川弘文館、1994年)	治病者
470	梶原正昭「『平家物語』と芸能一室町・戦国時代の琵琶法師とその芸能活動」(『平家語り－伝統と形態 (あなたが読む平家物語) 5』、1994年)	障害者
471	広木一人「正徹本『徒然草』第一六段「ひさ王宮一」－猿楽者と琵琶法師」(『青山学院大学文学部紀要』35、1994年)	障害者
472	井上正一「『靈異記』にみる「業」思想の民間受容－仏教的差別観の形成－」(朝枝善照編『論集奈良仏教二 律令国家と仏教』雄山閣、1994年)	疾病観
473	上田純一「禅宗における医僧と医療の問題について」(『禅学研究』73、1995年)	治病者
474	清水真澄「琵琶法師の修文－盛者必衰・瞽者・障害」(『国学院雑誌』96-1、1995年)	障害者
475	郡司博道「道元禅師の御病名、御病状」(『宗学研究』37、1995年)	疾病観
476	宮地清彦「瑩山禅師と中世社会の関連性について－「癩病」「非人」の語句より」(『曹洞宗研究員研究紀要』26、1995年)	障害者
477	東野治之「長屋王家木簡の醬・味滓請求文書－『葛氏方』との関連から－」(『日本医史学雑誌』41-1、1995年)	医書・医学
478	アンドリュウ・ゴープル「法隆寺蔵「医薬調剤古抄」積読」(『日本医史学雑誌』41-4、1995年)	医書・医学
479	山下宏明「琵琶法師の平家物語」(『国文学』40-5、1995年)	障害者
480	砂川博「琵琶法師についての二、三の問題」(『軍記と語り物』31、1995年)	障害者
481	高木浩明「ある琵琶法師の物語－『世継物語』・第五〇話をめぐって」(『二松学舎大学人文論叢』54、1995年)	障害者
482	森明彦「古代の被差別民」(『大阪の部落史』編纂委員会編『新修 大坂の部落史 上巻』解放出版社、1995年)	疾病観
483	吉田徳夫「中世の被差別民」(『大阪の部落史』編纂委員会編『新修 大坂の部落史 上巻』解放出版社、1995年)	疾病観
484	大形徹「二条大路木簡の呪符」(『木簡研究』18、木簡学会、1996年)	治病祭祀
485	宮崎健司「奈良末・平安初期における疫神祭祀」(日野昭編『日本古代の社会と宗教』永田文昌堂、1996年)	疾病観
486	加須屋誠「生老病死の図像学－仏教説話画研究序説 (上)」(『國華』1210、1996年)	疾病観
487	加須屋誠「生老病死の図像学－仏教説話画研究序説 (下)」(『國華』1211、1996年)	疾病観

V. 日本古代・中世疾病 疾病観論文目録

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	キーワード
488	新村拓『出産と生殖観の歴史』（法政大学出版局、1996年）	障害者
489	小林茂文「古代・中世の「癩者」と宗教—差別と救済」（藤野豊編著『歴史のなかの「癩者」』ゆみる出版、1996年）	疾病観
490	増尾伸一郎「『沈痾自哀文』の史的位置」（『万葉歌人と中国思想』吉川弘文館、1997年）	疾病観
491	和田萃「南山の九頭龍」（大山喬平教授退官記念会編『日本国家の史的特質』思文閣出版、1997年）	治病祭祀
492	塩田達也「律令国家の「勸農」政策—災害飢疫と社会保全システム・序説（1）」（『東北歴史資料館研究紀要』23、1997年）	疾病観
493	加須屋誠「日本美術史の中の「他者」、そして／あるいは、「他者」としての日本美術史—病草紙の観音は誰か？」（第16回国際シンポジウム 東洋美術史研究の展望）（『国際シンポジウム』16、1997年）	疾病観
494	佐野みどり「病草紙研究」（『風流造形物語—日本美術の構造と様態—』（学位論文）、1997年）	疾病観
495	水谷惟紗久「古記録にみえる室町時代の患者と医療（一）—『看聞御記』嘉吉元年入江殿鬮病記録から」（『日本医史学雑誌』43-1、1997年）	治病者
496	水谷惟紗久「古記録にみえる室町時代の患者と医療（二）—『言継卿記』永禄九年南向鬮病記録から」（『日本医史学雑誌』43-2、1997年）	治病者
497	水谷惟紗久「『盲聾記』の記事から—戦国時代の医師の日記」（『日本医史学雑誌』43-3、1997年）	疾病観
498	永藤靖「聖なる病あるいは女性の身体性について—『日本霊異記』下巻・第一九縁をめぐって」（『文学』9-4、1997年）	疾病観
499	谷麻衣子「源氏物語における病を表す言葉について」（『学習院大学国語国文学会誌』40、1997年）	疾病観
500	山田雄司「御霊会成立の前提条件—疫病観の変容」（大山喬平教授退官記念会編『日本社会の史的構造古代・中世』思文閣出版、1997年）	疾病観
501	花田春兆『日本の障害者—その文化史的側面』（中央法規出版、1997年）	障害者
502	池見澄隆『増補改訂版 中世の精神世界 死と救済』（人文書院、1997年）	疾病観
503	今村みゑ子「定家と興心房」（『明月記研究』2、1997年）	治病者
504	西岡陽子「近世日向の盲僧—盲僧寺院の文書から—」（『芸能史研究』135、1998年）	障害者
505	丸山裕美子『日本古代の医療制度』（名著刊行会、1998年）	疾病観
506	塩田達也「律令国家の「勸農」政策—災害飢疫と社会保全システム・序説（2）」（『東北歴史資料館研究紀要』24、1998年）	疾病観
507	斎藤俊哉「道元禪師示寂の御病因に関する諸論をめぐって」（『宗学研究』40、1998年）	疾病観
508	倉橋真司「臨終と病—往生をめぐる一側面」（『國學院雑誌』1096、1998年）	疾病観
509	内田由美子「『病草紙』の研究」（『古典文学研究』6、1998年）	疾病観
510	福井利吉郎「六道絵巻」（『福井利吉郎美術史論集』中央公論美術出版、1999年）	疾病観
511	吉田信宏「越路の春—一家持と池主の臥病贈答（巻十七ノ三九六五～三九六八）をめぐって」（井手至先生古稀記念会編『国語国文学藻』和泉書院、1999年）	疾病観
512	北郷聖「『大鏡』における三条天皇の眼病—陰陽五行説の視点から」（『緑岡詞林』23、1999年）	疾病観
513	月田みづえ「平安期の東国における行路病人、飢民救済対策について—武蔵国に於ける悲田処（その1）」（『学苑』711、1999年）	治病者
514	遠藤寿一「菊と老い・病・死—負性を帯びた平安朝菊詠の系譜」（『言語と文芸』116、1999年）	疾病観
515	新村拓「病の図像表現」（武田佐知子編『一遍聖絵を読み解く』吉川弘文館、1999年）	疾病観
516	圭室文雄「とげぬき地藏と治病」（『風俗史学』9、1999年）	治病祭祀
517	大喜直彦「中世の捨子」（『日本歴史』615、1999年）	疾病観
518	菊地大樹「受戒と治病」（『明月記研究』4、1999年）	治病祭祀
519	野崎千佳子「天平七年・九年に流行した疫病に関する一考察」（『法政史学』53、2000年）	疾病観
520	福原栄太郎「天平九年の疫病流行とその影響について—古代環境とその影響についての予備的考察」（『神戸山手大学環境文化研究所紀要』4、2000年）	疾病観
521	加須屋誠「『鼻黒の男』とは誰か？—病草紙の世界観—」（『日本文学』49-7、2000年）	疾病観

No.	著者：著書・論文 (雑誌・出版社、刊行年)	キーワード
522	荻野篤彦「病草紙にみられる疾患とその今日の意味」(『病院図書館 (近畿病院)』20、2000年)	疾病観
523	加須屋誠「日本美術史の中の「他者」、そして/あるいは、「他者」としての日本美術史—病草紙の観者は誰か?」(島本澐・加須屋誠編『美術史と他者』晃洋書房、2000年)	疾病観
524	寺本・ジョン・忠雄「『病草子』と笑い」(『日文研』23、2000年)	疾病観
525	湯浅佳子「小野小町伝説の一系譜—病める小町の話」(『東京学芸大学紀要 (人文科学)』51、2000年)	疾病観
526	小田悦代「『縛』と「法楽」—仁和寺性信の伝記に見られる病気治療呪術」(『仏教文化』10、2000年)	治病祭祀
527	小野寛「老身に病を重ね年を経て辛苦み、また児等を思ふ歌」(神野志隆光・坂本信幸企画編集『セミナー万葉の歌人と作品』5、和泉書院、2000年)	疾病観
528	金文峰「兼好と白楽天の病気観・健康観について」(『岡大國文論稿』28、2000年)	疾病観
529	西一夫「天平十九年春の家持と池主の贈答—「臥病」作品群の形成」(『万葉』174、2000年)	疾病観
530	中井賢一「浮舟の精神病理と宿世観」(『王朝文学研究誌』11、2000年)	疾病観
531	東辻保和「病と風」(『鎌倉時代語研究』23、2000年)	疾病観
532	金賢貞「平安時代における病気の様相について」(『東アジア日本語教育・日本文化研究』2、2000年)	疾病観
533	武田比呂男「『日本霊異記』の密教的信仰—病気治療と山林修行」(『国文学』661、2000年)	治病祭祀
534	ジェラルド・グローマー「甲斐国の瞽女」(『山梨大学教育人間科学部紀要』5、2001年)	疾病観
535	佐野みどり「物語絵断簡二図」(『国華』1271、2001年)	疾病観
536	増尾伸一郎「氏神・土の気・竈神とその鉦脈—陰陽師の〈占病崇法〉と地霊への眼差し」(河添房江他編『叢書想像する平安文学』7、勉誠出版、2001年)	治病祭祀
537	宮下雅恵「病と孕み、隠蔽と疎外—『夜の寝覚』を手掛かりに」(『日本文学』575、2001年)	疾病観
538	松岡智之「恋の微行と病—『源氏物語』光源氏と匂宮の場合」(『日本文学』575、2001年)	疾病観
539	久富木原玲「源氏物語の密通と病」(『日本文学』575、2001年)	疾病観
540	日向一雅「源氏物語と病—病の種々相と「もの思ひに病づく」世界」(『日本文学』575、2001年)	疾病観
541	三角洋一「宇治の大君と老病死苦」(王朝物語研究会編『論叢源氏物語』3、新典社、2001年)	疾病観
542	徳永誓子「修験道成立の史的前提—験者の展開」(『史林』84-1、2001年)	治病祭祀
543	武田比呂夫「『日本霊異記』にあらわれた〈やまい〉」(大野順一先生古稀記念論文集刊行会編『日本文芸思潮史論叢』ペリカン社、2001年)	疾病観
544	福原栄太郎「再び天平九年の疫病流行とその影響について」(橋本政良編『環境歴史学の視座』岩田書院、2002年)	疾病観
545	西山克「媒介者たちの中世—室町時代の王権と狐使い—」(中世都市研究会編『都市と職能—中世都市研究8』新人物往来社、2001年)	疾病観
546	繁田信一「苦しむ悪霊—平安貴族の生活感覚における亡霊と他界」(『歴史民俗資料学研究』7、神奈川大学歴史民俗資料学研究科、2002年)	疾病観
547	大島建彦「疫病神の伝承」(『国語—教育と研究』41、2002年)	疾病観
548	諸岡重明「『源氏物語』〈風邪〉という病の論理—〈絆〉〈俗聖〉・八の宮試論として」(『立教大学日本文学』89、2002年)	疾病観
549	三村友希「明石の中宮の言葉と身体—〈いさめ〉から〈病〉へ」(『中古文学』69、2002年)	疾病観
550	丸山裕美子「古代の天皇と病者」(網野善彦・樺山紘一・宮田登・安丸良夫・山本幸司編『岩波講座 天皇と王権を考える8 コスモロジーと身体』岩波書店、2002年)	疾病観
551	久保田順「徒然草評釈・二百七十五 息災なる人も目の前に大事の病者となりて」(『国文学』687、2002年)	疾病観
552	大島建彦「疫病と信仰」(『説話・伝承学』10、2002年)	疾病観
553	酒井シヅ「日中医学交流史1. 古代の交流」(『日中医学』17(1)、2002年)	医書・医学
554	酒井シヅ『病が語る日本史』(講談社、2002年)	疾病観
555	金井清光『中世の癡者と差別』(岩田書院、2003年)	障害者

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	キーワード
556	加須屋誠「『鼻黒の男』とは誰か？一病草紙の世界観一」（『仏教説話画の構造と機能』中央公論美術出版、2003年）	障害者
557	加須屋誠「病草紙研究—「美術史」と「他者」」（『仏教説話画の構造と機能』中央公論美術出版、2003年）	疾病観
558	加須屋誠「生老病死の図像学—仏教説話画研究序説」（『仏教説話画の構造と機能』中央公論美術出版、2003年）	疾病観
559	アレクサンドル・グラ「饗祭詞にみえる疫病鬼に対する呪的作用について（その2）—疫病鬼と領域決定」（『言葉と文化』4、2003年）	治病祭祀
560	小野裕子「清盛と重盛の病と医」（小峯和明編『「平家物語」の転生と再生』笠間書院、2003年）	治病者
561	斎藤英喜「いざなぎ流「天刑星の祭文」と病人祈祷の世界」（『巫覡・盲僧の伝承世界』2、三弥井書店、2003年）	治病祭祀
562	佐々木馨「日蓮の疾病観」（『日蓮教学研究所紀要』30、2003年）	疾病観
563	斎藤研一『子どもの中世史』（吉川弘文館、2003年）	疾病観
564	田中貴子「『溪嵐拾葉抄』に於ける「怪異」の諸相」（小松和彦編『日本妖怪学大全』小学館、2003年）	治病者
565	八木聖弥「『看聞日記』における病と死（1）」（『京都府立医科大学医学部医学科（教養教育）』37、2003年）	疾病観
566	繁田信一「医師・験者・陰陽師」（『陰陽師と貴族社会』吉川弘文館、2004年）	治病者
567	繁田信一「病氣と陰陽師」（『陰陽師と貴族社会』吉川弘文館、2004年）	治病者
568	繁田信一「医療の役割・呪術の役割」（『陰陽師と貴族社会』吉川弘文館、2004年）	医書・医学
569	繁田信一「呪詛と陰陽師」（『陰陽師と貴族社会』吉川弘文館、2004年）	治病者
570	西山良平「平安京の病者と孤児」（『都市平安京』京都大学学術出版会、2004年）	疾病観
571	西山良平「平安京のイエと排泄・トイレ」（『都市平安京』京都大学学術出版会、2004年）	疾病観
572	西山良平「平安京の動物誌」（『都市平安京』京都大学学術出版会、2004年）	疾病観
573	浜野潔「『日本疾病史』データベース化の試み」（『関西大学経済論集』54-3・4合併号、2004年）	疾病観
574	田中貴子「国文学の病理診断」（『GYROS』3、2004年）	医書・医学
575	姜博久「侏儒に関する一考察—障害者の存在形態をめぐる臆説—」（『古代史の研究』11、2004年）	障害者
576	杉田暉道・藤原壽則『今なぜ仏教医学か』（思文閣出版、2004年）	医書・医学
577	八木聖弥「『看聞日記』における病と死（2）」（『京都府立医科大学医学部医学科（教養教育）』38、2004年）	疾病観
578	ハイエク・マティアス「中世説話における病因と陰陽師の役割」（『アジア遊学』79、勉誠出版、2005年）	治病者
579	グラ・アレキサンドラ「八～九世紀における飢疫発生記録に関する一考察」（『アジア遊学』79、勉誠出版、2005年）	疾病観
580	伊藤信博「殺牛祭神と犠牲祭祀」（『アジア遊学』79、勉誠出版、2005年）	治病祭祀
581	小山聡子「『病草紙』制作と後白河法皇の思想」（『日本医史会雑誌』51-4、2005年）	疾病観
582	小山聡子「六道絵としての『病草紙』の異色性」（『年報日本史叢』2005、2005年）	疾病観
583	佐藤康宏「都の事件—「年中行事絵巻」「伴大納言絵詞」「病草紙」—」（木下直之編『講座日本美術史6 美術を支えるもの』東京大学出版会、2005年）	疾病観
584	高橋綾子「紫上の発病について—若菜巻解釈試論」（『言文』52、2005年）	疾病観
585	仙葉豊「福田真人著『結核という文化—病の比較文化史』」（『比較文学』47、2005年）	疾病観
586	林美朗「日本文学（古典）の精神病理学」（石塚晴通教授退職記念会編『日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開』汲古書院、2005年）	医書・医学
587	田中康二「和歌注釈の作法—『草庵集玉箒』における「例の病也」と「歌の魂なし」をめぐる」（長島弘明編『本居宣長の世界』森話社、2005年）	疾病観
588	佐藤康宏「都の事件—「年中行事絵巻」・「伴大納言絵巻」・「病草紙」」（木下直之編『講座日本美術史』6、東京大学出版会、2005年）	疾病観

No.	著者：著書・論文 (雑誌・出版社、刊行年)	キーワード
589	網野善彦『中世の非人と遊女』(講談社、2005年)	障害者
590	大星光史『古代日本の生命倫理と疾病観』(思文閣出版、2005年)	疾病観
591	八木聖弥「『看聞日記』における病と死(3)」(『京都府立医科大学医学部医学科(教養教育)』39、2005年)	疾病観
592	細井浩志「書評 繁田信一著『陰陽師と貴族社会』」(『日本史研究』514、2005年)	治病者
593	丸山裕美子「律令国家と医学テキスト」(『法史学研究会会報』11、法史学研究会、2006年)	医書・医学
594	西山良平「『病草紙』の歴史学」(『杏雨』9、2006年)	疾病観
595	若杉準治「病草紙について」(『杏雨』9、2006年)	疾病観
596	美濃部重克他編『医談抄』(伝承文学史料集成22)(三弥井書店、2006年)	治病者
597	ハイエク・マティアス「『安倍晴明と病』—中世説話における医師、陰陽師、僧侶が病気に対して果たした役割をめぐって」(『総研大文化科学研究』2、2006年)	障害者
598	秋貞淑「和歌 疾病のような恋—句宮と浮舟」(西沢正史企画・監修、上原作和編集『人物で読む源氏物語』18、勉誠社、2006年)	治病者
599	大久保広行・上安広治「老病死に関する万葉歌文集—第一部「老」・第二部「病」和歌編」(『東洋学研究』43、2006年)	疾病観
600	繁田信一『呪いの都 平安京—呪詛・呪術・陰陽師』(吉川弘文館、2006年)	治病者
601	新村拓『日本医療史』(吉川弘文館、2006年)	医書・医学
602	赤澤春彦「『関東御医師』考」(『中央史学』29、2006年)	治病者
603	八木聖弥「『看聞日記』における病と死(4)」(『京都府立医科大学医学部医学科(教養教育)』40、2006年)	疾病観
604	山本大介「『日本霊異記』下巻第十九縁における尼の容貌について—「頭と頸成り合ひ、人に異りて頼無し」という身体をめぐって」(『古代学研究所紀要』4、2006年)	疾病観
605	斎藤英喜『陰陽道の神々』(思文閣出版、2007年)	治病祭祀
606	東茂美「山上憶良の処方箋—都市平城の病」(『万葉古代学研究所年報』5、2007年)	医書・医学
607	折橋豊子「病気になるとということ—「病気たかり」から死へ」(『伝承文学研究』6、2007年)	疾病観
608	大久保広行・上安広治「老病死に関する万葉歌文集—第一部「老」・第二部「病」文章編」(『東洋学研究』44、2007年)	治病祭祀
609	清水教子「『権記』に見られる病気・怪我を示す語」(『ノートルダム清心女子大学紀要(日本語・日本文学)』42、2007年)	疾病観
610	大久保広行・早川芳枝・池原陽斉「老病死に関する万葉歌文集—第三部「死」和歌編」(『東洋大学大学院紀要(文学研究科)』43、2007年)	障害者
611	八木聖弥「『看聞日記』における病と死(5)」(『京都府立医科大学医学部医学科(教養教育)』41、2007年)	疾病観
612	横井清『中世民衆の生活文化(上)(中)(下)』(講談社学術文庫、2007年~2008年)	障害者
613	井上亘「『御体御卜』と『新撰亀相記』」(『東アジア文化環流』1-2、2008年)	疾病観
614	今西加奈「平安時代前期における追儼—九世紀後半変化説の再検討」(『古代史の研究』14、関西大学古代史研究会、2008年)	疾病観
615	山本聡美「病草紙の典拠—『正法念処経』身念処品と現存二十一場面との対応関係—」(村重寧先生・星山晋也先生古稀記念論文集編集委員会編『日本美術史の杜—村重寧先生・星山晋也先生古稀記念論文集』竹林舎、2008年)	疾病観
616	加藤悦子「旧関戸家本病草紙 侏儒図断簡」(『国華』1356、2008年)	疾病観
617	長沼正子「『運歩色葉集』附録の成立(二)—病に関する語彙をめぐって」(『研究と資料』59、2008年)	疾病観
618	広田収「『病い』の言葉」(糸井通浩(編集)、神尾暢子『王朝物語のしぐさとことば』清文堂出版、2008年)	疾病観
619	美濃部重克 辻本裕成 長谷川雅雄 ベトロ・クネヒト「〈翻〉伝尸「鬼」と「虫」—杏雨書屋蔵『伝屍病肝心鈔』略解」(『唱導文学研究』6、2008年)	疾病観
620	大胡太郎「〈性〉と〈病〉の系譜—源氏/非源氏の〈性の言説〉と〈言説の性〉」(『日本文学』659、2008年)	疾病観

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	キーワード
621	小稗文子「中世から近代の終末期の看護」（『秋田大学医学部保健学科紀要』16-2、2008年）	治療者
622	今津勝紀「古代の災害と地域社会—飢饉と疫病」（『歴史科学』196、大阪歴史科学協議会、2009年）	疾病観
623	小田愛「天平7・9年の疫病流行について」（『専修大学東アジア世界史研究センター年報』3、専修大学東アジア世界史研究センター、2009年）	疾病観
624	董科「平安時代前期における疫病流行の研究—「六国史」を中心に」（『千里山文学論集』82、関西大学大学院文学研究科、2009年）	疾病観
625	山本聡美「『正法念処経』経意絵としての「地獄草紙」「餓鬼草紙」「病草紙」（『金城日本語日本文化』85、2009年）	疾病観
626	高橋貫道「日蓮聖人の壇越教化に関する一考察—「病」を中心として」（『日蓮教学研究所紀要』34、2009年）	疾病観
627	細川涼一「看護・医療と歴史社会 第二回 中世都市鎌倉の病者と孤児」（『クロノス』30、2009年）	疾病観
628	小山聡子「憑祈禱の成立と阿尾奢法—平安中期以降における病気治療との関わりを中心として」（『親鸞の水脈』5、2009年）	医書・医学
629	武笠俊一「『問わず語り』の背後に潜むもの—『口述の生活史』成立の謎に迫る」（『人文論叢（三重大学）』26、2009年）	疾病観
630	董科「平安時代前期における疫病流行の研究—「六国史」を中心に」（『千里山文学論集』82、2009年）	疾病観
631	小田悦代「相応伝に記された阿尾奢法—その構造と病気治療との関係」（『仏教文学』33、2009年）	治病者
632	丸山裕美子「北宋天聖令による唐日医疾令の復原試案」（『愛知県立大学日本文化学部論集 歴史文化学科編』1、2009年）	医書・医学
633	丸山裕美子「延喜典薬式「諸国年料雑薬制」の成立と『出雲国風土記』（『延喜式研究』25、2009年）	医書・医学
634	西山克「室町時代宮廷社会の精神史—精神障害と怪異」（東アジア怪異学会編『怪異学の可能性』角川書店、2009年）	障害者
635	森正人『源氏物語と〈もののけ〉』（熊本日日新聞社、2009年）	疾病観
636	関根透「鎌倉僧医・梶原性全の医の倫理観」（『鶴見大学仏教文化研究所紀要』14、2009年）	治療者
637	有富純也「疾病と古代国家—国分寺の展開過程を中心に」（『歴史評論』728、歴史科学協議会、2010年）	疾病観
638	栄原永遠男「遣新羅使と疫病」（栄原永遠男編『日本古代の王権と社会』塙書房、2010年）	疾病観
639	鈴木隆雄『骨から見た日本人』（講談社学術文庫、2010年）	医書・医学
640	董科「奈良時代前後における疫病流行の研究」（『東アジア文化交渉史』3、関西大学文化交渉学教育研究拠点、2010年）	疾病観
641	山本聡美「『正法念処経』から「病草紙」へ—経説の変容と絵巻の生成」（『國華』1371、2010年）	疾病観
642	趙恩〈香骨〉「靈験譚における病と治療—擬人化と芸能」（小峯和明編『漢文文化圏の説話世界』（中世文学と隣接諸学1）竹林舎、2010年）	治病者
643	董科「奈良時代前後における疫病流行の研究—『続日本紀』に見る疫病関連記事を中心に」（『東アジア文化交渉研究』3、2010年）	疾病観
644	小山聡子「鎌倉時代のまじないと病気治療」（『親鸞の水脈』7、2010年）	治病者
645	大久保広行「病苦との対峙—旅人・憶良の場合」（『生の万葉集』（高岡市万葉歴史館論集）笠間書院、2010年）	疾病観
646	小山聡子「『恵信尼文書』第五通にみる親鸞の病気と經典読誦」（『二松学舎大学人文論叢』85、2010年）	治病者
647	陳崗・吉田則夫「『ヤ（病）ム』とその派生語の語史—「ウラヤム」「ココロヤム」など」（『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』144、2010年）	疾病観
648	小高恭『中世京都闇と陰の世相史年表』（岩田書院、2010年）	疾病観
649	辻本裕成「記録の中の医師達—医事説話集『医談抄』理解のために」（『南山大学日本文化学論集』10、2010年）	医書・医学
650	繁田信一「流行神と平安京の庶民たち—王朝民俗学の可能性」（神奈川大学常民文化研究所編『歴史と民俗』27、平凡社、2011年）	治病祭祀
651	河内将芳「宇喜多秀家夫人の「御病」と伏見稻荷社—「狐狩」と「陰陽師狩」をめぐる」（『朱』55、2011年）	治病祭祀

No.	著者：著書・論文 (雑誌・出版社、刊行年)	キーワード
652	筒井早苗「無住と病—臨終行儀の視点から見た看取りを中心に」(小島孝之監修；長母寺開山無住和尚七百年遠諱記念論集刊行会 編『無住—研究と資料』あるむ、2011年)	治病者
653	春日美穂「病む朱雀院—「滯標」巻斎宮入内をめぐる」(『物語文学論究』13、2011年)	疾病観
654	山辺絹子「声を引き出す薫—病に臥せる大君との関係をめぐって」(『物語文学論究』13、2011年)	疾病観
655	平野美佳「身じろがぬ紫の上—魂の遊離と病をめぐる」(『日本文学論究』70、2011年)	疾病観
656	石倉孝祐「縁起絵巻における病と治癒の表象形態解析」(『神道宗教』224、2011年)	疾病観
657	斎藤英喜「『招魂祭』をめぐる言説と儀礼—陰陽道祭祀研究のために」(『鷹陵史学』37、2011年)	治病祭祀
658	辻本裕成「『医談抄』と『医家千字文註』—両書のめざしたもの」(『南山大学日本文化学科論集』11、2011年)	医書・医学
659	鈴木英鷹「『日本後紀』にみる平安時代初期の医療福祉(桓武天皇から淳和天皇時代まで)」(『大阪河崎リハビリテーション大学紀要』5、2011年)	治病者
660	工藤健一「異界・異人—「こぶとり」に見る怪異」(上杉和彦編『生活と文化の歴史学1 経世の信仰・呪術』竹林舎、2012年)	障害者
661	薦田治子「盲僧琵琶の誕生について—北九州に伝存する楽器資料の調査から—」(『芸能史研究』196、2012年)	障害者
662	斎藤英喜『増補陰陽道の神々』(思文閣出版、2012年)	治病祭祀
663	服部英雄「大和国北山非人宿をめぐる東大寺と興福寺—奈良阪と般若坂」(『河原ノ者・非人・秀吉』山川出版社、2012年)	障害者
664	服部英雄「都鄙の療病寺・悲田院・清目(カワタ)—救ライ(癩)活動の展開と地方の差別構造」(『河原ノ者・非人・秀吉』山川出版社、2012年)	障害者
665	山本聡美「六道の情景—「地獄草紙」「餓鬼草紙」「病草紙」」(『やまと絵』(別冊太陽；日本のこころ)平凡社、2012年)	疾病観
666	金鍾徳「『源氏物語』に表れた病と治癒の論理」(韓文)(『日語日文学研究』80-2、2012年)	医書・医学
667	鯨井千佐登「皮膚の病と境界の神—日本「賤民」史研究への一階梯」(『国立歴史民俗博物館研究報告』174、2012年)	障害者
668	松本昌子「平安時代の御霊會と都市祭礼」(『国学院大学伝統文化リサーチセンター研究紀要』4、2012年)	疾病観
669	村瀬正光「日蓮聖人の病についての研究—日蓮聖人の病と疫病との関係」(『日蓮教学研究所紀要』39、2012年)	疾病観
670	小山聡子「鎌倉時代前期における病気治療—憑座への憑依を中心として」(『明月記研究』13、2012年)	治病者
671	榎本渉「平安王朝と中国医学—一二世紀を中心に」(『東京大学日本史学研究室紀要』別冊『中世政治社会論叢』東京大学日本史学研究室、2013年)	医書・医学
672	高田義人「藤原兼実と医家」(小原仁編『「玉葉」を読む 九条兼実とその時代』勉誠出版、2013年)	医書・医学
673	増淵徹「平安中後期における貴族と医師」(京都橘大学女性歴史文化研究所編『医療の社会史—生・老・病・死』思文閣出版、2013年)	医書・医学
674	増尾伸一郎「金液丹と禪師—仁明天皇の道教的長生法実践とその背景」(『日本歴史』776、日本歴史学会、2013年)	医書・医学
675	加須屋誠「仏教美術における身体：死の「表象不可能性」をめぐる」(『叙説』40、2013年)	疾病観
676	吉原浩人「大江匡衡「北野天神供御幣并種種物文」訳註—中原長国の代作による末期の病気平癒祈願」(『多元文化』2、2013年)	治病祭祀
677	亀井若菜「二つの「九相詩絵巻」における臨終の図像—臨終・往生・病・死体の図像を横断して」(加須屋誠編『図像解釈学—権力と他者』(仏教美術論集4)竹林舎、2013年)	疾病観
678	岩淵未紀子「日蓮聖人における富木尼教化—病を中心として」(『日蓮教学研究所紀要』40、2013年)	疾病観
679	吉橋さやか「異本『病草紙』の展開」(『説話文学研究』48、2013年)	疾病観
680	山本聡美「経から絵巻へ—経説絵巻の詞と絵」(『説話文学研究』48、2013年)	疾病観
681	新川登亀男「日常生活のなかの病と死」(三宅和朗編『古代の暮らしと祈り』(環境の日本史2)吉川弘文館、2013年)	疾病観
682	舟木勇治「古事記学会分科会・研究ノート『続日本紀』における疫病対処の記述—道饗祭と疫病祭を中心に」(『古事記年報』55、2013年)	治病祭祀

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	キーワード
683	豊岡瑞穂「草双紙における〈業病〉の諸相」（『古典文芸論叢』5、2013年）	障害者
684	小山聡子『親鸞の信仰と呪術―病気治療と臨終行儀』（吉川弘文館、2013年）	疾病観
685	細井浩志「藤原仲麻呂と御霊信仰の成立―『続日本紀』の怨霊記述について」（木本好信編『藤原仲麻呂とその時代』史聚会、2013年）	疾病観
686	小田葵「中世の捨て子論」（『玉藻』47、2013年）	疾病観
687	上野勝之『夢とモノノケの精神史―平安貴族の信仰世界』（京都大学学術出版会、2013年）	疾病観
688	山口敦史「くやまい」と鬼神―中巻第二四縁考」（『日本霊異記と東アジアの仏教』笠間書院、2013年）	疾病観
689	酒向伸行『憑霊信仰の歴史と民俗』（岩田書院、2013年）	治病者
690	細川涼一「鎌倉幕府の医師」（京都橘大学女性歴史文化研究所編『医療の社会史―生・老・病・死』思文閣出版、2013年）	治病者
691	米澤洋子「室町・戦国期の山科家の医療と家薬の形成―三位法眼家傳秘方をめぐって」（京都橘大学女性歴史文化研究所編『医療の社会史―生・老・病・死』思文閣出版、2013年）	治病者
692	新村拓『日本仏教の医療史』（法政大学出版局、2013年）	疾病観
693	李芊「半井本『医心方』案語の一考察―巻十三における『太素経』の引用」（『大東文化大学外国語学研究』14、2013年）	医書・医学
694	李芊「『医心方』巻五所引『病源論』攷―『和名類聚抄』との比較を中心に」（『指向 日本語学・日本語教育学論究』10、2013年）	医書・医学
695	辻本裕成「医家としての惟宗具俊と『医談抄』」（『南山大学日本文化学科論集』13、2013年）	医書・医学
696	丸山裕美子「平安中後期の医学と医療」（『日本史研究』619、2014年）	医書・医学
697	山田雄司『怨霊・怪異・伊勢神宮』（思文閣出版、2014年）	疾病観
698	小林學「関戸本『病草紙』についての考察」（『仏教芸術』33-2、2014年）	疾病観
699	董科「古代日本における異常気象・都市生活環境と疫病流行について―平安京を中心に」（『東アジア文化交渉研究』7、2014年）	疾病観
700	佐藤弘夫「小山聡子著『親鸞の信仰と呪術―病気治療と臨終行儀』」（『二松学舎大学人文論叢』93、2014年）	治病者
701	片岡耕平『日本中世の穢と秩序意識』（吉川弘文館、2014年）	障害者
702	李芊「『和名類聚抄』と『医心方』―「病源論」引用手法の比較」（『大東文化大学語学教育研究論叢』31、2014年）	医書・医学
703	辻本裕成「『医談抄』の誤脱をめぐって―『医談抄』注釈余滴」（『南山大学日本文化学科論集』14、2014年）	医書・医学
704	進藤浩司「梶原性全の医学―信仰と医療」（『東海仏教』59、2014年）	治病者
705	今津勝紀「日本古代地域社会の新視点―空間分析と生態学的アプローチ」（『歴史評論』786、歴史科学協議会、2015年）	疾病観
706	田中禎昭「古代戸籍に見る年齢分布と災害・飢饉・疾病」（『日本古代の年齢集団と地域社会』吉川弘文館、2015年）	疾病観
707	増尾伸一郎「金液丹と禪師―仁明天皇の道教的長生法実践とその背景」（『日本古代の典籍と宗教文化』吉川弘文館、2015年）	医書・医学
708	増尾伸一郎「墨書土器に見る信仰と習俗」（『日本古代の典籍と宗教文化』吉川弘文館、2015年）	治病祭祀
709	中丸貴史「漢文日記と歴史物語に関する一考察―『御堂関白記』『権記』『栄花物語』、一条天皇発病記事をめぐって」（『王朝歴史物語史の構想と展望』新典社、2015年）	疾病観
710	小川靖彦「山上憶良晩年の三部作における〈言志〉―「沈病自哀文」「悲歎俗道仮合即離易去難留詩一首并序」「老身重病経年辛苦及思兒等歌七首」における自己」（『國學院雑誌』116-1、2015年）	疾病観
711	小田悦代「日本における「阿尾奢法」受容に関する一試論：予言の法から病気治療呪法」（『御影史学論集』40、2015年）	疾病観
712	深草正博「世界史的気候変動の中の日本史」（『グローバル世界史と環境世界史』青山社、2016年）	疾病観
713	藤本誠「『日本霊異記』と中国仏教説話―化牛説話を素材として―」（『古代国家仏教と在地社会―日本霊異記と東大寺諷誦文稿の研究―』吉川弘文館、2016年）	障害者

No.	著者：著書・論文 (雑誌・出版社、刊行年)	キーワード
714	大塚千紗子「『日本霊異記』の盲目説話—古代東アジア圏における信仰と感応」(『東アジア文化研究』1、2016年)	障害者
715	斎藤菜穂子「『蜻蛉日記』安和の変直後の長精進と病臥—正五月と閏五月の対応」(『國學院大學紀要』54、2016年)	疾病観
716	小田悦代『呪縛・護法・阿尾奢法』(岩田書院、2016年)	治病祭祀
717	吉田一彦「奈良・平安時代前期の病と仏教—鬼神と般若の思想史」(『唐代史研究』19、2016年)	疾病観
718	酒向伸行「室町中期の憑霊信仰—「邪気」と病の関係を中心として」(『御影史学論集』41、2016年)	疾病観
719	辻本裕成「末代の医療かくあるべし—『医談抄』の衰退史観をめぐって」(『南山大学日本文化学科論集』16、2016年)	医書・医学
720	安田政彦「自然災害と疾病」(安田政彦編『生活と文化の歴史学1 自然災害と疾病』竹林舎、2017年)	疾病観
721	小林健彦「日本書紀に見る自然災害と疾病」(安田政彦編『生活と文化の歴史学1 自然災害と疾病』竹林舎、2017年)	疾病観
722	中西康裕「六国史にみる疫病」(安田政彦編『生活と文化の歴史学1 自然災害と疾病』竹林舎、2017年)	疾病観
723	丸山裕美子「平安日記にみる疾病」(安田政彦編『生活と文化の歴史学1 自然災害と疾病』竹林舎、2017年)	疾病観
724	中村直人「中世公家日記と自然災害・疾病」(安田政彦編『生活と文化の歴史学1 自然災害と疾病』竹林舎、2017年)	疾病観
725	小林宏史「古事記にみる自然災害と疾病」(安田政彦編『生活と文化の歴史学1 自然災害と疾病』竹林舎、2017年)	疾病観
726	太田敦子「癩病の光源氏」(安田政彦編『生活と文化の歴史学1 自然災害と疾病』竹林舎、2017年)	疾病観
727	細井浩志「疾病と神仏」(安田政彦編『生活と文化の歴史学1 自然災害と疾病』竹林舎、2017年)	疾病観
728	渕原智幸「古代東北の自然災害・疾病」(安田政彦編『生活と文化の歴史学1 自然災害と疾病』竹林舎、2017年)	疾病観
729	赤澤春彦「中世都市鎌倉の災害と疾病」(安田政彦編『生活と文化の歴史学1 自然災害と疾病』竹林舎、2017年)	疾病観
730	山本聡美「『粉河寺縁起絵巻』と経説」(安田政彦編『生活と文化の歴史学1 自然災害と疾病』竹林舎、2017年)	疾病観
731	細井浩志「陰陽道の成立についての試論—呪禁師との関係と「初期陰陽道」概念について」(吉川真司・倉本一宏編『日本的時空観の形成』思文閣出版、2017年)	治病祭祀
732	増尾伸一郎「『地神經』と〈五郎王子譚〉」(『道教と中國撰述佛典』汲古書院、2017年)	治病祭祀
733	増尾伸一郎「地神盲僧と朝鮮の経巫」(『道教と中國撰述佛典』汲古書院、2017年)	障害者
734	東野治之「解説」(『杏雨書屋所蔵病草紙模本集成』武田科学振興財団、2017年)	疾病観
735	加須屋誠「『総論』病草紙」(加須屋誠・山本聡美編『病草紙』中央公論美術出版、2017年)	疾病観
736	山本聡美「『病草紙』と経説」(加須屋誠・山本聡美編『病草紙』中央公論美術出版、2017年)	疾病観
737	増記隆介「『病草紙』と唐宋絵画」(加須屋誠・山本聡美編『病草紙』中央公論美術出版、2017年)	疾病観
738	川崎愛「空間論からみた日本のハンセン病史」(『流通経済大学社会学部論叢』28-1、2017年)	疾病観
739	黒野伸子・大友達也「落窪物語における「病」の扱いについての一考察—疾病規定をてがかりに」(『岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要』50、2017年)	疾病観
740	徳永誓子「日本中世生霊試論」(吉川真司・倉本一宏編『日本的時空観の形成』思文閣出版、2017年)	疾病観
741	中村禎里『【改訂新版】狐の日本史—古代・中世びとの祈りと呪術』(戎光堂出版、2017年)	疾病観
742	横佐知子『『医心方』事始』(藤原書店、2017年)	医書・医学
743	辻本裕成「『万安方』に於ける『医説』引用」(『南山大学日本文化学科論集』17、2017年)	医書・医学
744	進藤浩司「『頓医抄』巻十二における医家と仏家」(『東海仏教』62、2017年)	医書・医学
745	小山聡子「中世前期の病氣治療における神とモノノケ」(『歴史評論』816、2018年)	治病者
746	末森明夫「古代・中世日本の仏典音義における聾啞吃語彙」(『聾史会報』55、2018年)	障害者
747	末森明夫「『医心方』における聾啞語彙」(『聾史会報』56、2018年)	障害者

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	キーワード
748	末森明夫「日本古代仏教説話集における聾啞語彙」（『聾歴史研究』76、2018年）	障害者
749	辻本裕成「医事説話の嚙矢一惟宗具俊『医談抄』をめぐって」（『説話文学研究』53、2018年）	医書・医学
750	土屋有里子「『雑談集』にみる医と病」（『人間文化研究』29、2018年）	疾病観
751	鈴木耕太郎『牛頭天王信仰と中世』（法蔵館、2019年）	治病祭祀
752	川村信三「戦国大名大友宗麟の「寛容」（浅見雅一・野々瀬浩司編『キリスト教と寛容』慶應義塾大学出版会、2019年）	治病者
753	鈴木孝庸「貞成親王と平家語り」（『芸能史研究』226、2019年）	障害者
754	辻浩和「中世前期における盲人の芸能」（『芸能史研究』226、2019年）	障害者
755	植木行宣「下京住人の祇園祭」（『芸能史研究』227、2019年）	治病祭祀
756	丸山裕美子「平安時代の医学と『病草紙』」（『杏雨』22、2019年）	疾病観
757	並木和子「実資の病対応」（『古代文化』71-2、2019年）	疾病観
758	新納浩「『源氏物語』明石中宮 病の孤独一物語を覆う憂鬱」（『解釈学』87、2019年）	疾病観
759	崔鵬偉「『今昔物語集』にみる疫神・疫鬼」（『説話文学研究』54、2019年）	疾病観
760	黒野伸子・大友達也「奈良時代における疾病観・医療観の重層性—山上憶良、大伴家持の作品にあらわれる病の記述から」（『岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要』52、2019年）	疾病観
761	森正人『古代心性表現の研究』（岩波書店、2019年）	疾病観
762	進藤浩司「中世医書と仏教信仰—梶原性全著『頓医抄』における鬼・鬼神を手がかりとして」（『日本仏教学年報』85、2019年）	医書・医学
763	張麗山「東アジアの視点から見る日本陰陽道の病気対策—「土公病」を例に」（小山聡子編『前近代日本の病気治療と呪術』思文閣出版、2020年）	治病者
764	水口幹記「『日本霊異記』所載の目盲説話をめぐって—その“政治的”側面について」（小山聡子編『前近代日本の病気治療と呪術』思文閣出版、2020年）	障害者
765	大江篤「神祇官卜部と病」（小山聡子編『前近代日本の病気治療と呪術』思文閣出版、2020年）	治病祭祀
766	小山聡子「平安時代におけるモノノケの表象と治病」（小山聡子編『前近代日本の病気治療と呪術』思文閣出版、2020年）	治病者
767	赤澤春彦「日本中世における病・物気と陰陽道」（小山聡子編『前近代日本の病気治療と呪術』思文閣出版、2020年）	治病者
768	斎藤英喜「病気治療と神話・祈祷—「土公鎮祭」から「大土公祭文」へ」（小山聡子編『前近代日本の病気治療と呪術』思文閣出版、2020年）	治病者
769	細井浩志「奈良・平安時代における星辰・曆神信仰の展開と仏教との関係の一側面—僧侶の天文書学習の問題及び人魂信仰について」（木本好信編『古代史論聚』岩田書院、2020年）	疾病観
770	細井浩志「『日本』の誕生と疫病の発生」（申田久治編『天変地異はどう語られてきたか 中国・日本・朝鮮・東南アジア』東方書店、2020年）	疾病観
771	宮崎真由「陰陽道祭祀について」（細井浩志編『新陰陽道叢書第一巻古代』名著出版、2020年）	治病祭祀
772	今津勝紀「日本古代の疫病と穢」（歴史学研究会編『コロナ時代の歴史学』績文堂出版、2020年）	疾病観
773	三枝暁子「感染症と中世身分制」（歴史学研究会編『コロナ時代の歴史学』績文堂出版、2020年）	疾病観
774	徳永誓子「『護法信仰論覚書』後」（『比較日本文化研究』20、2020年）	治病祭祀
775	西本昌弘「平安遷都と疫病」（『日本歴史』870、2020年）	疾病観
776	藤本誠「『東大寺諷誦文稿』の再検討—病者（障害者）・路辺遺棄者・貧窮者等を中心として—」（『日本仏教総合研究』18、2020年）	障害者
777	吉岡正和「戦国時代甲斐国の流行病—「勝山記」「塩山向嶽禅庵小年代記」「王代記」「甲陽日記」の4年代記による111年間の検討」（『日本医史学雑誌』66-4、2020年）	疾病観
778	本庄総子「日本古代の疫病とマクニール・モデル」（『史林』103-1、2020年）	医書・医学
779	末森明夫「中古中世字書における聾啞吃字彙の受容と変容：聾概念と啞概念の独立性、啞概念と吃概念の連続性」（『ろう教育科学』62（1）、2020年）	
780	吉田一彦「鬼と神と仏法—インド・中国・日本：役行者の孔雀王呪法を手がかりに」（『神仏融合の東アジア史』名古屋大学出版会、2021年）	治病祭祀